東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO

2023 報告書

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　東京都高齢者福祉施設協議会

東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム・地域包括支援センター・在宅介護支援センター・デイサービスセンター約1,200ケ所が集まるネットワークです。

は じ め に

本書は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざして、東京の高齢者福祉施設・事業所が地域の中で試みている様子をまとめ、伝える報告書として発刊しました。取組みごとの実施レポートを掲載する一方、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」という全都的なキャンペーンとして取組んできた背景やキャンペーンの流れについても分かりやすく伝えるよう心掛けています。また、コンパクトなサイズになっており、本書を手に取った方が活用しやすい冊子となっております。

東京都内の高齢者福祉施設・事業所における地域によりそう活動への理解を深めるとともに、地域での実践の一助となれば幸いです。

●本書の構成について

本書は、４つの章で構成されています。

Ⅰ章　明日が待ち遠しい暮らしをデザインする
～地域の中でつながりあう高齢者施設・事務所とは～

地域の中における高齢者福祉施設・事業所の現状や地域住民の暮らしによりそうために求められているものをつながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOを実施する背景と合わせてイラストや図で解説します。また、地域の中で実践するためのポイントを「地域によりそいはじめるための10のステップ」としてまとめています。

Ⅱ章　地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

2024年１月に開催された実践報告会での報告やコメントなどから、それぞれの地域のニーズや取組みでの工夫やヒントを学びます。地域につながる中でみつけたたくさんの気づきが書かれています。

Ⅲ章　キャンペーン実施に至るまで～2023年度のふりかえり～

2023年度のキャンペーンを実施するにあたり、どのようなしかけをつくってきたか、学びの場づくりの様子やワーキングチームの活動の様子などから理解を深めます。

Ⅳ章　きっとみつかる！あなたのまちの『ちいきの輪』
～キャンペーン取組みレポート～

都内の各地の地域によりそう取組みの様子についてキャンペーン参加施設・事業所から届いたレポートを掲載しています。

目　次

Ⅰ　明日が待ち遠しい暮らしをデザインする～地域の中でつながりあう高齢者施設・事業所とは～

図解　明日が待ち遠しい暮らしをデザインする
～地域の中でつながりあう高齢者施設・事業所とは～……… 2
地域によりそいはじめるための10のステップ ……… 4

Ⅱ　地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

第１節
実践報告会について……… 8
コロナ禍における新たな地域交流事例　「なのはなサロンととらいふぁーむ」… 9
地域とつながり40年　「しなふく紅葉フェスタ」 ……… 11
社会福祉法人が地域交流の役割を担う　「おがワンフェスティバル」……… 14
３つの社会福祉法人で取組む子ども食堂　「やのくち子ども食堂」……… 16
第２節
実践報告会を振り返って……… 18
第３節
参加者の声……… 25

Ⅲ　キャンペーン実施に至るまで～2023年度のふりかえり～

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOとは？ ……… 28
４年ぶりの「つなひろ」を振り返る～コロナ禍を経て見えてきた成果と課題～…… 30
見学会……… 32
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOワーキングチーム ……… 34

Ⅳ　きっとみつかる！あなたのまちの「ちいきの輪」～キャンペーン取組みレポート～

実施施設・事業所 一覧 ……… 40
実施施設・事業所取組みレポート2023 ……… 42

資料

実施施設・事業所 募集要項 ………102
実施状況………106
広報グッズ紹介………107
広報ツール紹介………108
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム名簿 ………111

Ⅰ

明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

～地域の中でつながりあう高齢者施設・事業所とは～

図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする
～地域の中でつながりあう高齢者施設・事業所とは～

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOとは?

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうことで「ちいきの輪」をつくります。

「ちいきの輪」とは、一人ひとりの生活を、点（福祉サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えること（地域包括ケアの実現）を示しています。制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、サービス利用者や地域住民によりそう具体的な８つの取組み例として右記イラストにまとめています。

キーワード

地域でこぼれ落ちる人

- 高齢者とその家族を取り巻く様々な暮らしの課題が多様化・複雑化し、社会のセーフティネットからこぼれ落ちる可能性のある人への支援が必要。
- 東京のさまざまな場所にある高齢者のための施設・事業所は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域でくらす住民のみなさんの役に立ちたいと願っている。

地域によりそう

- 高齢者福祉施設・事業所が地域の課題や住民の個々の生活ニーズを把握し、専門性を発揮しながら、解決に結びつくアクションを起こしている。
- 地域住民にとって身近な存在として感じてもらうために暮らしの中でのちょっとした困りごとや悩みによりそい、支える活動を展開。
- 合わせて、広く市民全体に知ってもらうために都内の高齢者福祉施設・事業所が一体となったキャンペーンを実施。

施設・事業所も地域の一員として、地域のゆるやかな支え合いネットワークを形成するために地域に入り込み、住民とかかわり、地域の高齢者が施設・事業所に利用者としてかかわる前に要介護状態を予防するはたらきかけを行います。かかわりの入口は高齢者ですが、家族・自治会・商店街などそれぞれの地域住民の生活ニーズ把握を重ねていくことで、いずれは地域全体の課題をつかみ、新しい社会資源（サービス、ネットワーク等）を生み出すきっかけをつくり、最期の時まで安心して暮らせる地域の実現をめざしています。

東京の地域を取り巻く課題～制度の狭間にこぼれ落ちる人～

①高齢化の進行

2035年には、高齢者人口が約354万人、高齢化率は25%、都民の４人に１人が高齢者（65歳以上）になると見込まれています。
出典：東京都政策企画局「『未来の東京』戦略 version up 2023　附属資料　東京の将来人口」
https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/jinkou

②孤立の増加

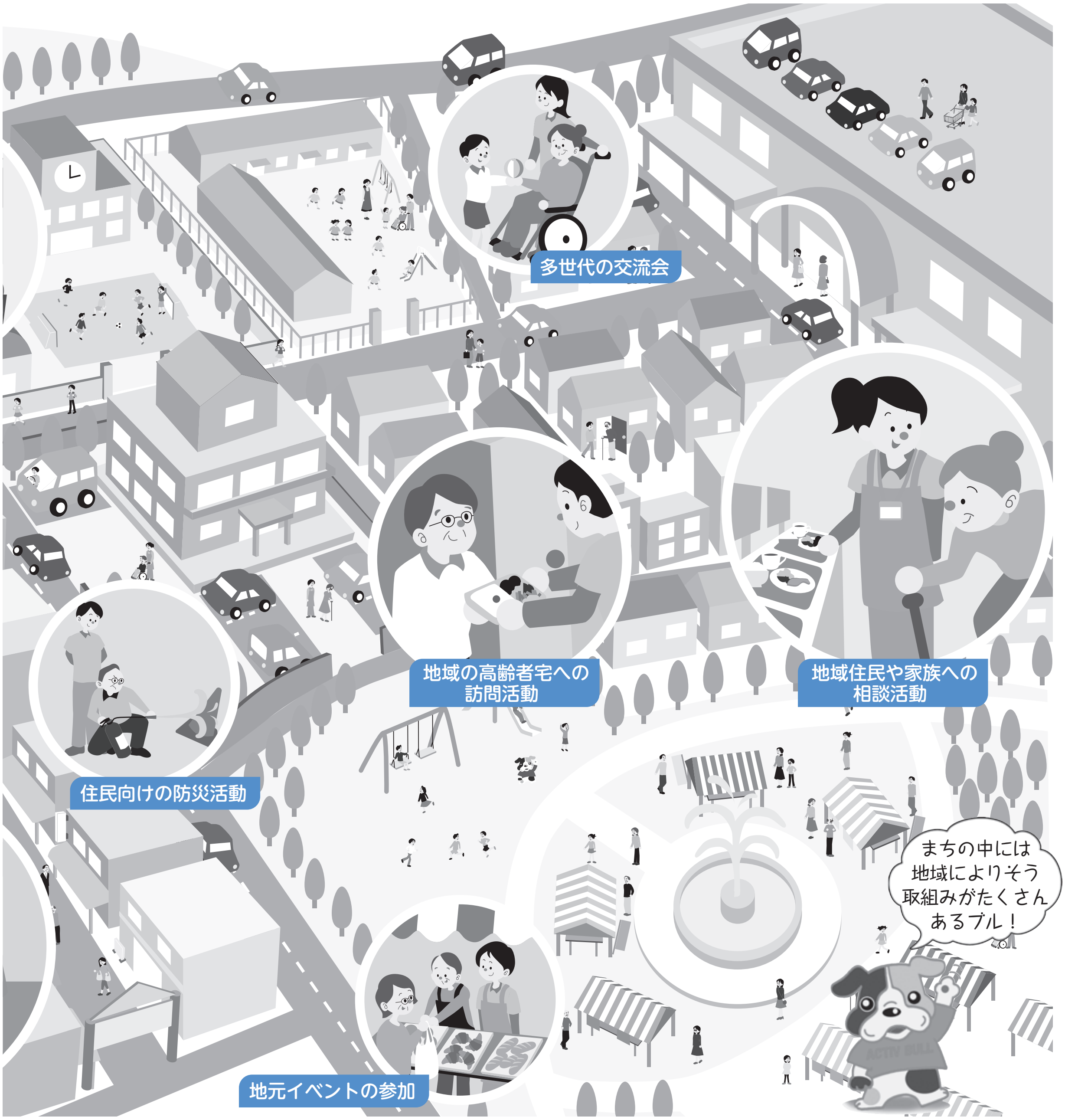
65歳以上の一人暮らし世帯について、2020年では約92万世帯であるのが、2050年には約126万世帯に増えると見込まれています。また、コロナ禍を経て他者とのつながりを保ちにくくなった地域もあります。
出典：東京都政策企画局「『未来の東京』戦略 version up 2023　附属資料　東京の将来人口」
https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seisakukikaku/jinkou

③経済的に困窮している高齢者の増加

高齢者世帯の37%が年収200万円以下となっています。
出典：令和３年版高齢社会白書　第２節 高齢期の暮らしの動向　１ 就業・所得
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2021/html/zenbun/s1_2_1.html

④多面的なかかわりの必要性

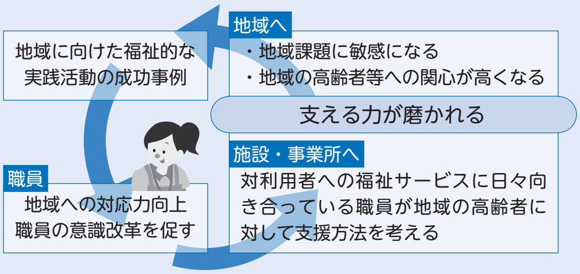
本人ならびに家族に、多様かつ複雑な課題があるため、サービスの充実だけでは対応が不十分なケースが増えています。



地域によりそうことで生まれる効果

- 車の両輪のように「福祉（施設・事業所利用者へのサービスの質）」「地域（地域住民全体に向けた支援）」の２つが比例して高齢者福祉施設・事業所の支援の質が高められる。
- １施設では、地域への対応力に限界があるため、公私にわたる多様な機関との協働が欠かせない。

包括的な視点に基づく福祉的な取組みサイクル



上記の一連のサイクルを通して、新たな暮らしの課題解決に向けた視点が形成されるとともに、施設・事業所の地域のニーズに対する支える力が磨かれ、自ずと支え手のあらゆる可能性を引き出します。

地域によりそいはじめるための10のステップ

このページでは、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうために必要なことを10のステップとしてまとめてみました。すでに地域で行っていることやこれから取り組もうとしていることを見返すチェックポイントとして活用ください。ここに示しているものはほんの一例であり、高齢者福祉施設・事業所のそれぞれが取組む上での大切なポイント（活動への効果と最初にできることなど）をから考えていくためのツールとしても利用できます。

1 STEP 地域の一員として力になる

⇒施設で行う特別なことではなく、従来行われている地域に馴染のあるイベント（例：お祭りなど）に協力する。施設から地域に歩みより、ともに汗をかくことで、距離感が縮まり、互いに話しやすい関係性が構築される。

⇒まずは、町内会のイベントをのぞき、地域の団体が集まる定例の会議に参加していく中で積極的に協力してみよう。

2 STEP 活動を応援してくれる地域の仲間を増やす

⇒日頃から顔の見える関係をつくり、気軽に相談できる環境をつくること。普段から考えをめぐらせていることを伝える中で共感し、活動の協力者になることも。企画を練る段階から一緒に入ってもらうことで一体感を持った取組みができ、今後のつながりとひろがりが生まれやすくなる。

⇒地域の方々や団体などに名前を覚えてもらえるよう話かけに行く。どんなに小さなことでも頼って相談しに行こう。特に自分たちだけではできないことをする際には得意とする分野を持つ地域住民や団体を巻き込むのも１つの方法。

3 STEP １人１人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える

⇒高齢者福祉の現場で日々起こっている困りごとは、地域の方々の目にどのように映るのだろうか、地域の中での日常の暮らしとどのようにつながっているのだろうか。地域での出来事や暮らしの困りごと（高齢者にとらわれない）は、高齢者福祉施設・事業所の目から見てどう捉え、利用者やスタッフにつながっているのか考えて行動することで、ニーズをキャッチするアンテナを敏感に持つことができる。

⇒ふと立ち止まって他人事を自分事として考える時間をつくり、多くの人と共有してみよう。

4 STEP 参加者の目線に立った企画づくり

⇒自施設・事業所の取組みのターゲットにしている人はどんな暮らしをしている人か想像し、何を求めているのかを考えながら企画づくりをすすめる。また、実施する際はその人の目線に合わせて、どうしたら楽しんでもらえるのか、伝え方やはたらきかけ方を工夫することで、地域の方がより身近に感じ、参加したいと思ってもらえる可能性が高まる。

⇒高齢者福祉施設・事業所の当たり前だと思っていることが、実はそうでないことを意識しながら、ターゲットとしている人が親しみを持てるようにする。

5 STEP 参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる

⇒使い方を覚えれば自由に施設の設備が利用できるように環境を整える、早い時期から参加している方が先輩となって教えたり、活動の協力者になったりすることで、地域の方同士の助け合いが生まれるしくみが展開される。参加者が活動の運営に目を向けるきっかけとなり、スタッフの負

担を分けることでゆるやかに長く続けられる活動に結びつく。
⇒参加者の声をじっくり聞く機会をつくり、取組みに対する率直な意見を伺いながら、現状を変えるために地域住民と高齢者福祉施設・事業所ができそうなことは何か一緒に考え、やってみる。

6 STEP できることから実践してみる

⇒地域住民や団体、高齢者福祉施設・事業所内の利用者やスタッフが地域のニーズに気づき、活動として応えたいという声に対して、自分たちが無理なく手伝えることを思い描き、地域へ発信することで、具体的な活動に結びつく可能性を高めることができる。
⇒見学会、カフェ、地域のイベントへの参画、学校の授業への協力など、取り組みやすいものから始める。施設・事業所内外の協力を得る際は計画的にかかわり、少しずつ段取りを整えていこう。

7 STEP 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する

⇒取組みを行う際に新しく何かを準備する必要は決してなく、すでに身の回りにあるものを有効活用することで思いもよらない効果を生むこともある。特に地域交流スペース、リハビリのトレーニング機器、給食室などの設備などは活動する場をつくることにもつながる。
⇒まず、施設・事業所の設備や環境の中からどういったものが地域の方の日常をより豊かにする可能性があるのか１つずつあげて整理してみよう。

8 STEP スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる

⇒ただ、お願いするのではなく、その人が得意なことをまかせ、協力者であるスタッフやボランティアが楽しみながら参画することで、活動に参加する意味を見出し、今後のモチベーションにつなげることができる。ときには、活動を発展させるためのアイディアをくれたり、新たな仲間を呼んで来たりすることもある。
⇒活動の意味・今回の目標・実施のイメージを事前に共有し、その人に合った役割をお願いしてみよう。終了後には参加者の声を伝えたり、ねぎらいの会を開いたり、取組みを楽しくふりかえられる場をつくってみよう。

9 STEP 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける

⇒活動に必要な人・モノ・金（技術や知識も含む）を自分たちの中で用意していくには限界がある。運営上の困りごとを、より多くの方に取組みを知ってもらえるチャンスと捉え、協力できる可能性を持つ人や団体の立場に立ってできそうなことを具体的に示しながら協力を呼びかける。例えば、参加費の徴収、寄付（モノ・金）やボランティアの募集などがある。呼びかけたいターゲットに合わせて、ウェブサイトやチラシなど活動の様子を積極的に発信することでより多くの協力を得られる可能性が高まる。
⇒今行っている活動の中で課題となっていることや不足しているものを常に把握し、どういった協力なら得ることができるのかを考えて少しずつ行動する。

10 STEP １回の活動で終わらせず、次を意識する

⇒１回のイベントを行うことに満足せず、次回以降の取組みに向けての種まきを行うと、参加者や協力者が徐々に増え、活動に継続性を持たせることができる。加えて、連続して参加した人に対して意識した心配り（名前を覚える、前回の話題を出すなどのコミュニケーションをとるなど）を積み重ねることで、今後の活動への協力者になってくれることもある。
⇒次回のイベントの案内、リピーター参加における特典（プレゼント配布）など、次回へのお楽しみを用意する。

地域によりそいはじめるための10のステップ

1 地域の一員として力になる

2 活動を応援してくれる地域の仲間を増やす

3 １人１人のニーズを地域のニーズと照らし合わせて考える

4 参加者の目線に立った企画づくり

5 参加者や地域の方の自主性を高めるしくみをつくる

6 できることから実践してみる

7 高齢者福祉施設ならではの強みを有効活用する

8 スタッフも楽しみながら取組める体制をつくる

9 活動の運営に困ったら具体的に呼びかける

10 １回の活動で終わらせず、次を意識する

10 STEP

Ⅱ

地域のニーズにこたえるヒント

～実践報告会より～

実践報告会 記録

だれもが安心して暮らせるために地域でできること～つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOの取組みから～

※報告書掲載にあたり、一部要約しております。

日時：令和６年１月12日（金）14：00～17：00

会場：研究社英語センタービル地下２階　大会議室

つなひろキャンペーン終了後の2024年１月12日（金）に、実践報告会を開催しました。実践報告会では、今年度キャンペーンに参加した４つの取組みを、それぞれの事業所からご報告いただきました。

コロナ禍で、縮小してしまった「ちいきの輪」。４つの実践報告は、「地域でできること」をしようとする試行錯誤の様子が伝わり、様々なヒントを得ることができました。

内容

〔進行・コメント〕

・我謝　悟（地域包括ケア推進委員会　委員長／シャローム東久留米　統括施設長）

・今　裕司（同委員会　つなひろワーキングチームリーダー／あすなろみんなの家　統括施設長）

〔実践報告〕

・テーマ１　地域交流「なのはなサロン」
　大脇　秀一　氏（特別養護老人ホームとらいふ武蔵野）

・テーマ２　地域交流「しなふく紅葉フェスタ」
　齊藤　恵里　氏（品川総合福祉センター（地域福祉課）　かえで荘）

・テーマ３　地域交流「おがワンフェスティバル」
　小林　美穂　氏（特別養護老人ホーム小川ホーム）

・テーマ４　カフェ・居場所「やのくち子ども食堂」
　山田　建　氏（ハーモニー松葉）

〔情報交換会〕

実践報告１

コロナ禍における新たな地域交流事例「なのはなサロンととらいふぁーむ」

社会福祉法人とらいふ　特別養護老人ホームとらいふ武蔵野（武蔵野市）
大脇　秀一氏

詳細はP72

なのはなサロンについて

「なのはなサロン」とは、武蔵野市が行っている「いきいきサロン事業」の一つです。いきいきサロンとは武蔵野市が週１回以上、おおむね65歳以上の高齢者の方を対象に、介護予防のための健康体操等を含むプログラム（２時間程度）を行う通いの場です。武蔵野市がその運営団体に補助を行っています。目的は、①社会的孤立感の解消、②心身の健康維持、③要介護状態の予防、④住み慣れた地域での在宅生活の継続支援です。

とらいふ武蔵野を会場に実施する「なのはなサロン」では健康体操を毎回行い、それ以外にも毎週違うプログラムを用意し、音楽療法、ボッチャ、座ってフラダンス、また各種ゲーム等を行っています。

また、独居高齢者が外へ出る機会をつくろう、その気にさせようということで、独居高齢者への支援を目的として、希望者にワンコイン（500円）でランチの提供をはじめました。

社会福祉法人には地域貢献（地域公益活動）が義務づけられているため、開催場所を提供することで地域貢献にも寄与できました。また、何といっても特養には看護師が昼間は勤務しているため、万一体調不良があっても安心できるというところも特徴の一つだと思います。

とらいふぁーむについて

とらいふぁーむは私どもの法人理念「人の幸せ、地域の幸せ、福祉文化の創造」を具現化するものをつくりたいという思いで開設した、バリアフリーガーデンです。

開設のきっかけの一つには、コロナ禍での入居者の心身機能の低下がありました。面会もほとんどできない、ようやくできたとしても１か月に１回で、認知症の方の症状がどんどん進む。コロナ禍前は、息子が来ると、「〇〇ちゃん、来たね」と言っていたのが、あるとき名前が出てこなくなっている。ご家族は大きなショックを受けていました。

また、職員にも働きがいの低下は顕著に表れ、地域との交流も中断してしまいました。

それらを何とか解決したいということに加え、ある入居者にもきっかけがあります。その方が施設にいる生活に悲嘆に暮れて、事あるごとに「死にたい。生きていても仕方がな

い。」と話をして、どんなに勇気づけよう、元気づけようと思っても、「もういいの。私はもう死ぬしかない。死にたい。」と話していました。コロナ禍で家族も面会に来られず、ほろほろ泣くばかりでした。何とかしようと職員と話をしていたところ、ある職員が「あの方は昔お花を育てていたことがあると言っていたよ」と発言しました。そして、小さなプランターを用意し、園芸店から職員がリモートで花々を見せながら、ご本人に植える花を選んで頂き、施設に戻って一緒に植えつけをしました。

「死にたい」と涙されているときには一緒に外にあるプランターを見に行き、昔の話を聞いたり、花の成長を一緒に喜んだりしました。その過程で少しずつ笑顔がみられるようになり、今ではその方から冗談をきくまでになりました。

大げさなことはできないけれど、まず花を育てる、野菜を育てるなどの、できるところから始めたのがきっかけでした。ただ、私たちだけでは野菜の知識もないので、地域のボランティア団体「クリーンむさしのを推進する会」に全面的に協力していただいています。

現在、とらいふぁーむはコロナ禍における新たな面会場になっています。また、保育所が併設されているため、園児と高齢者との多世代交流の場、また、地域住民が気軽に集える場、職員同士が昼食や団らんをする交流の場などになっています。

この取組みを通じ、千葉大学大学院工学研究院で都市型農園を研究されている湯淺先生から共同研究の依頼があり、「ポストコロナ時代における高齢者施設の都市型農園を介した多主体交流創出に関する研究」も行っています。

また、かかる経費については武蔵野市に相談し、クラウドファンディングを実施しました。武蔵野市では「クラウドファンディング活用促進事業」があったものの、２年間で１件も応募がないとのことでした。そこで私たちが申請をし、第１号案件として採択されました。目標額を100万円としましたが、目標を上回り119万円を集めることができました。

ほか、この活動を湯淺先生から三菱財団に申請を出していただき、「社会福祉事業・研究助成金」にも採択が決定しました。

今後の課題

今後の課題は、参加者の増加に合わせてスタッフを増やし若返りを図っていくことと、限られた職員だけでなく多くの職員に関わってもらい、とらいふ武蔵野としてのサポート体制を強化していくことです。今後も地域貢献、また新しい取組みを活発化させたいと思っております。

実践報告２

地域とつながり40年「しなふく紅葉フェスタ」

社会福祉法人品川総合福祉センター（地域福祉課）　かえで荘（品川区）
齊藤　恵里氏

詳細はP50

イベントでつながる

しなふく紅葉フェスタは、毎年、品川区八潮の当法人本部で10月に開催する秋のお祭りです。法人内の全事業所の職員が関わって、実行委員体制で企画・運営を行っています。今年度は、職員が57名とボランティアさん、地域団体の協力の皆様と合計131名のスタッフでお迎えして、お客様は400人ほど集まりました。

内容としては、駐車場にステージをつくり、そのステージ以外には模擬店と体験コーナーと健康活動コーナーを設置しました。そのほか先着200名様に野菜の詰め合わせをプレゼントするサービスを行いました。

ステージでは地元の中学生の吹奏楽の演奏、障害者施設のご利用者が週に１回練習している手話を基にしたリズム舞踊、地域の方で構成された手話舞踊、地域の太鼓の会の子どもたちの演奏、最後に着物リメイクファッションショーを行いました。

しなふく紅葉フェスタの開催趣旨は４つあります。①施設のご利用者の文化的な活動を推進し、自己実現の機会を増やし、社会参加の機会にすること、②参加型のプログラムを行い、地域交流の場をつくることで、地域住民と施設利用者との相互理解を深めること、③区内の関係機関・法人・団体に参加を呼びかけ、連携を図り、福祉のネットワークをより強化していくこと、④地域の協力体制を構築しながら地域住民と共に楽しみ、地域福祉力の向上を図ることを目的に行いました。

③については、皆さんに喜んでいただけるコーナーを考え、今回は日頃からお世話になっている明治安田生命保険相互会社さんに、指１本や腕で簡単に検査ができる先進健康機器を持ってきていただき、無料測定コーナーをつくりました。明治安田生命さんは社会貢献に力を入れており、無料で機械を持ってきてくださいました。

加えて、普段お世話になっている薬局の薬剤師さんと栄養士さんにもお願いをし、企業同士でコラボしていただき、相談コーナーをつくりました。例えば野菜摂取度を測る測定機器では、どれくらいの期間に野菜が足りているか、足りていないかを指１本で測れる検査があり、「私、少ないわ。じゃあ、どんなものを食べたらいいの？」と、近くにいる栄養士さんに聞いてみる。血管年齢はこれぐらいで、「私はこれ、どうしたらいいの？」と、

自分が飲んでいるお薬について薬剤師さんに相談しながら、栄養士さんからは「じゃあ、これを食べたらいいんじゃない？」というアドバイスを聞ける、ということで行列ができるコーナーになりました。
　このような方たちと関係がつながったので、障害者施設にもこの検査機器を持ってきていただき、骨密度や血管年齢を測りました。しなふく紅葉フェスタで日頃からの関係をつないだところ、さらなるつながりができました。

地域のボランティアとの出会いと連携

　当法人では、ボランティアは「しなふくの宝物」と考えています。
　かえで荘では、コロナ禍の間はボランティアの受入れは中止になりました。ただ、ボランティアをしたいという声は止まらず、特に最近、社会貢献したいと考えている企業さんも多いです。品川ボランティアセンターさんから「企業ボランティアさんがこういう活動を求めていますが、何かないですか」と聞かれたとき、そこで断ってしまうのは簡単です。受け入れる施設側もそれどころではないというところが本音としてはありますが、施設側もボランティア側も喜ぶ活動はないかと考え、草むしりなど施設の周りの環境整備や、車椅子清掃を１階のロビーや外でやっていただく形で行いました。
　例えばスーパーマーケットの文化堂さんからは、賞味期限が近いものや、少し箱が傷ついてしまってお店に出せないものを時々寄贈していただいています。それをワゴンに入れて、かえで荘の方が自分で選んで、好きなものをもらえるよう回りました。
　プーマジャパン株式会社さんには、車椅子清掃と、園庭とセンター周辺の環境整備をお願いしています。一昨年からの活動で、１年目は年４回、２年目は月に１回、３年目の今年は週１回と、頻度を上げて活動してくださっています。

　コロナ禍になって、なかなかボランティアさんが施設の中に入れないという現状もありましたが、今度は私たちも外に出て、地域貢献している団体さんとつながりを作りました。品川区の主催で「地域貢献活動展」というイベントがあります。そこには、社会貢献したい、地域貢献したいという団体がたくさん集まっています。そこでさまざまな団体と出会い、たとえば今回のしなふく紅葉フェスタの着物リメイクファッションショーにつながりました。

　かえで荘のボランティア活動は、様々な団体さんとのつながりに日々支えられていますが、ここでボランティア活動を継続したいと思っていただける仕掛けづくりをしています。ボランティアを行ってくださった団体さんへ、施設ではご家族も職員も喜んでいますという写真や寄せ書きなどを、こまめにお送りしています。そうすると、これならまた次もやりたいということにつながります。実際にプーマジャパン株式会社さんの活動が週１回に増えたように、活動が広がっていくと思っています。
　こういう日頃からのお付き合いが、しなふく紅葉フェスタのような大きいイベントにつながっており、大切にしていかなければいけないと思っています。

私たちは高齢者福祉施設としても、社会福祉法人としても、地域のニーズに対して何ができるかと、地域交流だけではなく、地域ニーズに応じた地域貢献や福祉教育をずっと行ってきました。その頃子どもだったが、今、手話舞踊に参加しているなど、昔からつながっている地域に種をまく活動から、ボランティアさんが広がり、しなふくの理解者が増える、信頼していただける関係になっていることにつながっています。

ボランティアさんからいろいろな新しい発想や視点をいただくことが多くありますので、それを大切に今後の活動にもつなげていきたいと思っています。

実践報告３

社会福祉法人が地域交流の役割を担う「おがワンフェスティバル」

社会福祉法人緑友会　小川ホーム（小平市）
小林　美穂氏
詳細はP81

日頃のつながりから実現した「おがワンフェスティバル」

当法人の中の地域包括支援センター小川ホームでは、２層協議会（＝２層協議体）「だれもが安心して暮らせる小川西町を考える会　みらい（以下、「みらい」）」を行っています。メンバーには様々な方に入っていただいて、地域の住民の方、民生委員さん、近隣の白梅学園大学の先生、㈱ブリヂストンさん、地域の障害者センターの方、社協の方、民生委員さんなど、30～35名です。３か月に１回ほど集まって会議をしています。

この「みらい」の皆さんが、小川ホームを使って地域につながっていこうと、おがワンフェスティバルを企画しました。たとえば歌を披露したい方、バザーで小物や衣服を販売したい方、キッチンカーでお店を出したい方、地域参加として協力したい企業など、地域へ何か貢献したいけれど、場所や規模として難しいといったニーズを集め、小川ホームは大枠と場所を提供し、開催しました。企画や内容は各参加団体にお任せする形です。

このお祭りはコロナ禍前に１度開催したものの、コロナ禍で中止していましたが、2023年11月26日に、４年ぶりに開催しました。この日は寒かったにも関わらず、360名ほどの方にお越しいただきました。

スタッフは、「みらい」の方と、「みらい」の方のお知り合い、見守りボランティアさん、地域の民生委員さんなど約70名のボランティアさんに加え、小川ホームの職員約30名の、100名ほどで行いました。

小物や衣服を販売したいという方に呼びかけ、物品を頂き、バザーという形で出したり、「みらい」の方のお知り合いや職員のつながりで、キッチンカーを２台出しました。

「だれでも喫茶」ではミニカレー１食100円。これは月に１回当施設で行っている「だれでも食堂」のおがワンフェスティバル版です。高校生以下は無料で提供して、社会福祉法人としての公益という形で行いました。ほか、福祉作業所でつくったクッキーやコーヒー、ジュースを販売しました。

ハワイアンマッサージは、店主の方が「地域の方にマッサージ店を知っていただきたい」という思いから出店していただき、無料でマッサージをしてくれました。

ブリヂストンさんからは「だれでもできるボッチャ」を出していただきました。

白梅学園大学の学生さんは、「出張あそぼう会」という子どもたちと遊べるコーナーを

運営していただきました。そこで使用した遊び道具は、学生さんの手作りでした。

普段はデイサービスで使用しているステージ台で作った「ふれあいステージ」では、障害者支援施設のリズム工房さんに人形劇をしていただいたり、小平市から要請している介護予防リーダーさんにお願いをして、「いきらく体操」という介護予防教室を行いました。

小川ホームの隣にある緑成会病院では、地域貢献としてぜひ関わっていきたいとおっしゃっていただいたので、インボディという体内の基本成分を計測できる機械を用いて、測定結果の相談や栄養相談ができるコーナーを運営していただきました。

おがワンフェスティバルは、私たち小川ホームの施設職員だけで開催するお祭りではありません。地域の方が小川ホームを使って、皆がつながるお祭りとして行っています。

多様な活動の拠点として

毎月開催している「だれでも食堂」は、コロナ禍で始めた取組みです。最初は高齢者が多かったのですが、１年以上続けていくと、いろいろなつながりで、近くの小学校や中学校の校長先生、地域の子どもたちも来てくれるようになりました。

ほか、閉じこもりなどの相談を受けている社会福祉協議会さんからのつながりで「なかなか仕事には行けないけれども、地域に出たい」という方がボランティアで来てくださったり、地域の知的障害のグループホームの女性たちが月に１回、だれでも食堂のお手伝いに来てくれて、そのお手伝いからもまた輪が広がっています。このように様々な取組みを行うことで、つながりが広がり、また新しい取組みができていくと思っています。

こういった活動を続けるのはなかなか難しい部分もありますが、活動をやりたいと思ってくださっている「みらい」の方たちの思いを大切にしていきたいと思っています。地域づくりは時間がかかりますので、少しずつ、つながりを広げながら行っていきたいと思っています。

これからも、小川ホームがここにあってよかったと思っていただけるよう、地域に根ざした施設を目指して活動していきます。

実践報告４

３つの社会福祉法人で取組む子ども食堂「やのくち子ども食堂」

社会福祉法人博愛会　ハーモニー松葉（稲城市）
山田　建氏
詳細はP86

子ども食堂開始の経緯

「やのくち子ども食堂」は、平成29年の改正社会福祉法で稲城市が「子どもの居場所づくり」を取組みのテーマとし、市を３つの圏域に分け、その中の矢野口という私たちの地域の３法人では、子ども食堂をやりましょうとなったことがきっかけで始まりました。

社会福祉法人東保育会さんが松葉保育園を運営、当法人は高齢者福祉事業の軽費老人ホームのケアハウスを運営、社会福祉法人正吉福祉会の正吉苑さんはグループホームと包括支援センターが入っている施設を運営しており、正吉苑さんに地域のまとめ役をお願いし、連携して子ども食堂を行っています。

まず、子ども食堂の趣旨を３法人で話し合い、「子ども食堂は子ども専用ではなく、高齢者・児童などいろんな人が関わる支え合いの場所、安心感が持てる場所になるといい」ということで始めています。対象者は、夜に一人でご飯を食べている小学生にして、おいしい食事を共にすることの大切さを感じてもらえるようにしています。

そして極力、ハーモニー松葉のご入居者さんが主体となり子ども食堂に取り組んでいます。たとえばクリスマス会でご入居者さんにサンタさんになってもらって、子どもたちにプレゼントを渡していただいたり、子どもたちのために食事を盛りつけたりしていただいています。

こども食堂の周知方法は、自治会や近所の商店街に毎月ポスター・チラシを貼らせていただいたり、SNSやホームページを活用して、参加者の募集を行っています。会場は松葉保育園とハーモニー松葉で、それぞれの施設で月１回ずつ行っています。参加人数は10～15人と、ハーモニー松葉のご入居者から５～８人お手伝いをしていただいています。マンパワーが足りないときは３法人同士で協力しています。

お食事代は１食100円で提供しています。地域公益活動なので、実際の食費はもっとかかっていて赤字になりますが、３法人で共有しているのは、赤字になっても細かいことは気にしないでどんどんやろうと、割り切って運営しています。例えば保育園にお手伝いに行くとき、残業代などは当法人が払いますが、あまり気にせず、お互いさまという意識で運営しています。

コロナ禍になってからは会食からお弁当の配達に変えています。月に２回、配達は民生

児童委員さん、自治体の方、包括の職員さんに手伝っていただいています。

コロナが５類になったことで、2023年９月から会食を再開していますが、以前のようにお子さんが多く参加することはないため、いい雰囲気の居場所づくりを再構築できるかが課題となっています。

地域公益活動が社会福祉法人にもたらす複数のメリット

子ども食堂を始めて、地域からの信頼性は確実に上がっていて、知名度を含め「ハーモニー松葉さんはいい施設ですよね」という意見をいただく機会が多くなりました。このように地域貢献していると、法人や施設のイメージがよくなるようで、求人の応募が多くなりました。ホームページやSNSで情報発信しているので、それらを見ている方は、いいイメージがつき応募するきっかけになっているようです。

また、子ども食堂を始めてから、職員の働きがいと専門性が上がっています。始めるときは、職員の反対意見（アレルギーの問題、ご入居者や子どもに何かあったらどうするか）も多かったのですが、それらは徐々に軌道修正しましょうとしていて、実際にやってみると職員もすごくやりがいを感じているようです。

子ども食堂は経営的には赤字で、どうしても人件費やお弁当代などは採算が取れませんが、それ以上にメリットの方が多く生まれているので、実施してよかったと思います。ただ、地域と法人がwin-winでないと続けられないので、メリットを確認しながらやっていかないと、難しいと思っています。

私たちがずっと子ども食堂をやってきて感じることですが、地域公益活動は、施設単独でやろうとすると難しいので、近くの施設や、共感できる相談員さんがいたら相談して「何か一緒にやろうよ」と声をかけ、連携しながらそれぞれの強みを生かして行うことも一つの方法だと思います。複数の法人だと役割分担できたり、相談しやすかったりします。

地域公益活動を実践するためには、まず動くことが大事だと思います。マンパワーやリスクの話がどうしても出てきますが、私たちの経験上は、軌道修正しながら調整すれば大丈夫です。最初からうまくいくことはまずないと思うので、そのぐらいの感覚で始めてみるのが良いと思っています。

誰もが安心して暮らせるために地域でできること
～つながれひろがれちいきの輪 in TOKYOの取組みから～
実践報告会を振り返って

2024年１月12日（金）に開催した実践報告会の４施設からの事例報告について、当日の進行役を務めた二人で、後日、振り返りを行いました。以下は、その内容です。

コメント：我謝　悟（地域包括ケア推進委員会　委員長／シャローム東久留米　統括施設長）
今　裕司（同委員会　つなひろワーキングチームリーダー／あすなろみんなの家　統括施設長）

なのはなサロンととらいふふぁーむ（社会福祉法人とらいふ　特別養護老人ホームとらいふ武蔵野）

我謝　今回発表いただいたすべての取り組みでは、いろいろなところと連携をとっていました。特にとらいふ武蔵野では千葉大学の大学院との共同研究や福祉分野だけでなく環境保全に関する地域のボランティア団体また地元企業とのつながりもありました。とらいふ武蔵野の取り組みは、こういうところが「ミソ」かなと思いました。社会福祉法人は、他分野や学校、企業等との連携に及び腰なところが多いので、こうやって、うまくつながるといいよな、というところが目にとまりました。

今　ほかの発表も含めて、俗にいう「産学官」の中で、「産」と「学」とどうつながるか。そこは本当に上手にやっているなと感じました。クラウドファンディングについては、武蔵野市の事業にもうまく乗っていて、それだけが理由でできたというわけではないと思いますが、やはり目のつけどころを少し変えていく発想が見られました。確かに寄附は募っていても、クラウドファンディングという新しい手法に対して、社会福祉法人は積極性があまりないところが多いかなと思います。

我謝　そういうことを社会福祉法人がやっていいのかと。古典的な発想というか、従来型の発想からすると「へーっ」となる事例ではないかと思います。社会福祉法人では「赤字覚悟」というのはあちこちで聞くけれど、そうではなくて、「当然企業からも出資してもらって」みたいな姿勢は、地域を巻き込んでいくにはありなんじゃないか。

今　私も今までクラウドファンディングにいくつか参加したことがあるんですけれど、やはり魅力があるからそこにお金を出すというか。そういった意味では自分たちが今やろうとしていることが、ある意味、取り組む前から評価されることにもなると思います。ニーズがあるかどうかということでもあるし、「これいいね」と

思ってもらえているかどうかということを公にするというか。事前からの取り組みを通じて応援団を増やしていくということなので、とても面白い。これはぜひほかでもやってほしいと思います。

我謝　ただ自分たちの思いつきではなくて、地域や企業も含めてみんなが「ああそれいいね」と思うような企画をきちんとやらないと駄目だよ、ということも合わせて、みんなに広げていきたいと思う。それに加えて、企業側も地域貢献のアピールをしたい。そうすると連携の中で、企業側からの報告や紹介もあると思います。そうすると、社会福祉法人も頑張っているんだね、ということが、社会福祉法人の普段のエリアというか範疇にいるところだけでなくて、違う分野や媒体での発信にもつながるような気がします。これはとらいふ武蔵野の取り組みのポイントだったかなと思います。

あとは、「限られた職員しか対応しきれていないところは反省点」とレジュメに書いてありましたが。これはそうなりがちだな、とは思います。旗を振っている人たちの周辺だけが頑張って、ほかの人は冷ややかに見る。そうではなく、企業も地域も全部みんなが盛り上がっているのなら、「自分も参加しよう」と思ってもらえる。職員の中でもそういう人が増えていくところが、ポイントのような気がします。限られた職員しか対応できていないことはもちろん課題だけれど、みんなで応援することは大事だと思います。

みんなが前向きであればいいと思います。後ろを向くのではなく、うちは結構面白いことをやっているな、手伝えることがあったら手伝おうという気持ちを持ってくれればプラスだと思います。

しなふく紅葉フェスタ（社会福祉法人品川総合福祉センター（地域福祉課）　かえで荘）

今　しなふく（品川総合福祉センター）の「紅葉フェスタ」。しなふくも規模的にも非常にいろいろなことをされていて、びっくりでした。キャリアもすごいところがあります。

我謝　法人の事業規模自体がかなり大きく、高齢施設もあり障害施設もあり、というところのメリットをうまく生かしている感じがしました。その中で、障害者の発表、参加をうまくイベントに取り入れていたと思います。特養だけの法人では、高齢者が発表などで参加をするのはなかなか難しく限られてしまうこともある部分を、たとえばファッションショーの企画に、障害を持った方々が自ら参加し、うまく連携する形をとっていた。高齢分野だけの法人からすると、地域内の障害分野の施設・事業所を持った法人さんたちとうまく連携すれば、同じようなことができる可能性はあると感じました。

あと、ここにも企業が関わっていますよね。企業の持っている力を自分たちのイ

ベントにうまく引っ張り込んでいって、いわばおいしいところも取っていくことは、社会福祉法人が今まで弱かった点だと思います。イベントに企業をうまく引っ張り込んで、社会福祉法人がやっていますよと入れているところが、今後のあり方の一つなのかなという気がします。

今　そうですね。この取り組みのすごいと思ったところは、大企業から地元の商店、ボランティア、NPOなど様々なジャンルや規模感のあるところとのつながりがあって、一朝一夕にできないものの積み重ねの重さを非常に感じます。そしてそれが入所者さんや参加者さんに還元されていることがとてもいいなと。

我謝　本当にwin-winの状況ができていると思います。恐らく、そのためには企業に飛び込んで交渉するとか、相談を持ちかけるという地味な努力もしたのでしょう。そこからつながりができて、毎年となってくればしめたものです。

今　発表後の情報交換会のグループで、どうやってそんな多くの企業さんとつながれたのか、人脈のつくり方についての質問が出ていましたが、ポイントは“断らない”とのことです。

例えば企業さんが「こんな活動やってみたい」とか「うちでできることないですか」と、区の社会福祉協議会に相談を持ち込んだとする。こんなことをやりたい企業がいますが、品川総合福祉センターさんでは需要がありますか、という問合せがあったときに、やりませんとは絶対に言わない。まず一度、どんなことがやりたいのかをしっかり聞いて、それが自分の法人や施設でうまく取り込めそうと思ったら、どうぞと言う。

そういう経験があると、例えば次に社協に相談があったときに、そうだ、品川総合福祉センターに聞いてみよう、となって聞いてくれる。その積み重ねで、相談がいろいろ舞い込んでくるというか、広がってくるというお話がありました。やはり売り込んでいくことはもちろんしているだろうし、もう一方で、そういう積み重ねができてくると、放っておいてもという言い方はおかしいけれども、しばらくすればお話が舞い込んでくるようになる。大変かもしれないですけれど、なるほどなと。企業さんも、地域に向けて何かをやりたいと思っているところはたくさんあるが、どこに行ったらいいか分からない。じゃあ社協に聞いてみよう。聞いたらそれが品川総合福祉センターさんに回ってくる、という循環を感じました。

我謝　断らないのはすごいと思います。ちょっとお話を聞かせてくださいと言って、こういうことだったらできるんじゃないですかとつながれば広がる。まさに「つながれ広がれ」という感じ。

今　確かに断らないことは難しい。だから、「うちは今こんなボランティアさんや、こんなことを必要としています」と明確にすることも一つのやり方です。一方で、問い合わせをきっかけに今まで予想しなかったところとつながって、話が舞い込んでくるという仕掛けも必要なのかなと思いました。

おがワンフェスティバル（社会福祉法人緑友会　小川ホーム）

今　続いて、小川ホームさんです。ここはおがワンフェスティバルを我謝委員長も私も見学会に参加させていただきました。

我謝　ここも連携という意味では同じです。ブリヂストンという大きな企業が地域にあることをうまく活かしている。それと白梅学園大学とうまく連携を取っているし、たまたま隣にあるという緑成会病院とも連携したイベントになっている。やはり、生活支援体制整備事業でいう第２層のあたり、中学校や包括くらいの圏域での地域づくりの取り組みはどうしても包括だけでの取り組みになりがちなところですが、ここでは２層協議体が施設や事業所全体、法人全体をうまく取り込んでいる。発表者の小林さんは特養も包括のことも両方分かっているのでうまく取り込んでいったと思うけれど、そこを特養側が包括との距離感をきちんと持ちながらも、取り込んでいく。法人の活動として、２層協議体の人たちに声をかけていく、というような持っていき方をするというのは、一つの大きなヒント、モデルになるのではと思いました。

見学会で見た、地域の方々が協力をしながら、いろいろと出し物などをやっている姿は理想的なイベントのあり方です。ステージでも、障害を持った人たちだったり、「だれもが安心して暮らせる小川西町を考える会　みらい」とうまくつながっているところが小川ホームの強みになっている。だとすれば、どの社会福祉法人でもそれは比較的簡単にやっていけそうなのではないかなと思いました。自法人で２層の生活支援コーディネーターを置いて、２層協議体との連携でイベントをうまくつなげていけば、足掛かりとして、第一歩としてはとてもいいのでは、と感じました。

今　そうですよね。１法人１施設で、規模的にも大きな法人ではない。けれど、やはりそういう法人や施設でもちゃんと地域とのつながりを広げていけることは、小川ホームの実績だと思います。我謝委員長がおっしゃったように、協議体または地域包括支援センターの活動というものと法人の活動がうまく連動していて、特養の職員としても、包括の活動や役割をしっかり理解できているのだろうという気がします。

我謝　イベントを通じ、包括がどんな動きをして、どんな人たちとつながっているかということが、特養やデイの職員さんたちが知る機会にもなるし、こういうつながりがあるんだ、じゃあデイの夏祭りに来てもらおうか、手伝ってもらおうか、特養にも呼んでと、広がっていく。２層協議体はいいメンバーを持っているはずです。包括は地域とのパイプを持っているけれども、それ以外の法人施設のスタッフはそこを知らないから、うまく連携が取れないことが多い。それをこの規模の中であれだけのイベントができるというのは、小川ホームがそこをきちんと取り入れて、つながって広がっているから、そんな気がします。

今　あとはほかの事例報告でも同じことが言えると思うけれども、こうした機会に、関わる団体さんがやっていること、または小川ホームさんのやっていることをうまくPRもされている。今回も、いわゆる誰でも食堂である「おがワン食堂」の１周年もうまく絡めて、食堂の試食を通じてちゃんとPRもしている。また館内を歩いていると、そこかしこに２層協議体の活動や包括がやっている活動についてもうまくイベントの中に溶け込むような形で掲示されている。多世代交流という意味では、大学の保育科の学生さんが来られている。そういうところとのつながりはなかなか得難い中で、それもあるからいろいろな人に入ってもらえる。関わる人たちみんなが、自分たちの活動もPRできるところがとてもいいと思いました。

我謝　学校もwin-winだと思います。学生さんたちが活動できる場所になっている。実体験としてイベントに参加をして広場を運営する。そうした体験は本当にいい勉強になるから、学校としてもぜひ、という話になるはずです。

今　そうやってうまくつながりを広げていけるところはここの魅力です。

我謝　そういう意味では、小規模な法人や施設には、小川ホームの事例はとても分かりやすいモデルだと思います。こういうやり方だったら真似できそうだなと思えるようなところがありましたね。

やのくち子ども食堂（社会福祉法人博愛会　ハーモニー松葉）

今　最後に発表をいただいたのが、やのくち子ども食堂さん。大きな特徴として地域の三つの社会福祉法人が共働しての取り組み、ということです。それも、それぞれ種別が違ったり規模が違う法人でした。

我謝　各法人・施設ができることにポイントを当てていました。例えば松葉保育園は、場所を提供できます。包括を持つ法人の、特養のいなぎ正吉苑は、地域のまとめ役として声をかけたりアピールをしましょう。それを山田さんたちのケアハウスハーモニー松葉は、軽費老人ホーム、ケアハウスとして、ほかの種別に比べて比較的動きやすい状況の中で絡んでいる。このような役割分担が面白いなと思いました。特養単体では難しい。保育も保育だけでは難しいけれど、特養と軽費と保育がうまく連携が取れていて、子どものものだけではない子ども食堂につながっているんだなということは、すごく面白いと思いました。

　ここも２層協議体のグループとうまく連携が取れている。また軽費らしさというか、軽費の利用者さんたちが身体が動ける方々で、主体にできるというところをうまく取り入れている。各法人がやれることをみんなで力を合わせてやっていくことは、つながる目標としてすごくよく、やれそうな取り組み、モデルになりそうだというのはとても感じた発表でした。それぞれの専門性をうまく使うこと、得意分野をうまく使うことがとても面白い報告だったかなと思います。

我謝　そういう動きで地域に根づいてきている部分が見えてくるので、おそらく今後、例えば防災のことだとしても、保育の課題、特養の課題、軽費の課題もうまく連携を取りながらいろいろなことで協力し合えるようなつながりができてき始めている。この事業がそれをつないでいるというのは、いいなあと思います。ある種、これも一つの形のモデルになっているなと、すごく感じました。

今　ここは先ほどのとらいふ武蔵野とは真逆というか、それこそ赤字を覚悟、赤字を出しても仕方がないと割り切っている。細かいことは気にしないで、これは「地域公益活動」なのでと言っていた。そういったポリシーを持つということ、やはり地域公益活動は社会福祉法人の使命と言われているので、それはそれで必要な考え方かなと感じた。この取り組みで「何とか収益を上げましょう」というのは違うのだろうと思います。

我謝　「儲けよう」なんて考えないけれど、副産物として、信頼性が上がったり、求人をかけたときに、「あそこで子ども食堂をやっているあの施設ですね」という形で、地域に広がっていくところは、おそらくお金がかかる広報費の一部をここでうまくつかんでいる可能性はあるのではないかと思ったりします。

今　そうですよね。現場で働く職員には、忙しくて大変でとてもこういう活動にまで手を伸ばせないんだ、と言う人も間違いなく多くいらっしゃると思う。けれども、もう一方で、福祉の業界、介護の業界、保育の業界を志す人の中には、地域に向けた活動や世代を超えた活動、企業とのコラボレーション、こうしたものの可能性に魅力を感じて来られる方も少なくはないのかなと思う。それでミスマッチも減るだろうし、ある意味広報費をかけずに職員を確保できる。これが山田さんの発表の中で「人材の確保」として説明されていた部分でもあったのかなと思います。

子ども食堂としてのやりくりは赤字かもしれないけれど、法人の信頼度や魅力度の向上につながることは間違いなくあるだろう。やのくち子ども食堂の場合、今まで小学生中心だったのが、ニーズがどんどん広がって、変わってきている。その子たちが中学生になり、加えて高齢向けにも、という要望もかなりあるということでは、おそらく今後、形が少しずつ変わっていくのかなと思っています。今後もぜひまたその取り組みの経過などを聞かせていただきたいと思いました。

まとめ・メッセージ

我謝　四つの発表、それぞれが面白かった。よくこの四つの事例を選んだなと思うくらい、特徴的で面白いなと思いました。

今　確かに特徴もそれぞれにあるけれども、本当に面白い。ただ全く自分たちには手が届かないことばかりかというと、決してそんなことはなくて、やろうと思えば自分たちの施設や法人でもうまくいくようなことだったのではないでしょうか。

我謝　この四つの事例とも、真似できるところはある。そこが今回の実践報告会のポイントとすれば、すごく的を射ている良い企画だったような気がしますね。

今　最後にまとめです。ぜひ次年度もキャンペーンを行いたいと事業計画を立てています。来年度の活動に向けて、あるいは、会員施設、事業所さんに向けてメッセージはありますか。

我謝　この「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」というキーワードをもう一回みんなで考えて、そこに立ち返ってやってみようよということがあっていいのではないかと思います。「つながる」では、社会福祉法人だけとか、社会福祉法人同士でとかいうことではなく、地域、企業、学校などときちんとつながってみよう、つながる努力をみんなでやりましょうよ、ということをまずやる。そこから「広がり」が出てくる。これは、この実践報告の中からもきちんと拾ってもらえる部分だと思います。今回の事例を通じて、ああ確かにみんなそこから広がってきているよね、と感じます。おそらく法人の理事長さんたちにも伝わるような思いがあって、そうすると地域が明るくなって笑顔になって楽しくなる。

このキャンペーンのタイトル「つながれ　ひろがれ」が実践されれば、社会福祉法人の役割、使命としての地域公益活動が実践できるのではないでしょうか。楽しそうにこの企画が進んでいけば、職員の閉塞感、疲弊していたり、ネガティブ感みたいなものが少しでも減り、「ああ、うちの法人は結構面白いことをやるな、自分もちょっと関わってみようかな」と、感じて何かを始める一歩になれば、モチベーションにもつながるし、求人にもつながっていくと思います。

「いいことだらけだよ」ということを、次のキャンペーンでもアピールして、もっと多くの人や施設に参加をしていただけるように、小さな取り組みでもいいんだというところも伝えながら、キャンペーンを拡大していけるような１年にしたいです。

今　小さいことで構わないので、それぞれの施設、地域で取り組んでいくことによって広がりを本当に見せていくと思っています。

今年度のつなひろは、コロナ禍での中断を経て、実に４年ぶりのキャンペーンでした。今年度は以前の参加に比べると３分の１程度の参加という形でしたが、令和６年度は更に各施設で少しずつ取り組める状況にもなってくるかと思います。その中で、本当に無理のない範囲で、やれば必ず自分たちにとっても楽しいことだったり、学びになることもあると思う。ぜひまた次年度もつなひろワーキングのメンバーも知恵を絞っていきたいです。そしてもう少しいろいろな施設の取り組みを見学に行く機会をつくれたらいいなと思っています。そうしたところのやり方も工夫をしていきたいと思っています。

ぜひ多くの皆さんに興味を持っていただき、また参加もしていただければと思います。次年度もいろいろな工夫をしながら取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

（了）

実践報告会

参加者の声

- 他施設との協働や企業ボランティアといった地域とのつながりの中で新しい発見がありました。今回の実践報告会で、自法人でもできる部分が多くあると思いました。
- 参加して、モチベーションが上がりました。
- 実践報告会は参考になることが多くて勉強になりました。
- 施設や地域それぞれの活動の話が聞けてとてもよかったです。地域の特性などによって様々な意見がきけてよかったです。
- 普段、施設側の取り組みを聞くことが少なかったので、聞けてよかった。コーディネーターとして、施設・企業などを含め、地域の資源をいかに活用するかを改めて考えたいと思った。
- 自分にはない発想や情報があり、非常に勉強になりました。
- 地域とつながる資源である（包括が）他施設との協力もやっていきたい。
- 企業ボランティアについてはじめて聞けてよかった。
- 大変参考になる情報が多かったです。
- 実践報告会で色々なお話が伺えました。参考にさせて頂きたいと思います。
- 他の事業者や地域の具体的な話が聞けて大変良かった。新たな視点やヒントがたくさん学べてよかった。今後に生かしたい。
- 他地域の実状を知れてよかったです。
- 大変参考になりました。

情報交換会の様子。多様な団体が実践報告会の感想を共有し、今後に向けた活動について話し合いました。

Ⅲ

キャンペーン実施に至るまで

～2023年度のふりかえり～

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO とは？

東京の高齢者福祉施設がお互いに協力しながら、地域によりそうためのイベントや交流会を各地で一斉におこなうキャンペーンです。

地域包括ケアを推進し、だれもが安心して暮らせるまちづくりのために、地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることをめざしています。

豊かな暮らしを支えるしくみがととのえられていく中で、高齢化の進行、社会的な孤立の問題、生活への困窮などが課題となっています。

そこで、「地域の中で、制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、一人ひとりによりそうこと」「一人ひとりの生活を、点（サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えるための『ちいきの輪』をつくること」を展開するための１つの方法として地域の多様な人びとをつなぐ取組みを行っています。

2023年度 キャンペーン実績
実施期間　2023年９月１日～11月30日
実施数　都内で59事業・334団体
参加数　述べ 8,990名
※感染症の影響等により中止となった事業あり。

※詳細はP106参照

「Ⅳきっとみつかる！あなたのまちの『ちいきの輪』（Ｐ39）」では、今年度のキャンペーンにおける各施設・事業所の取組みについて区市町村別に下記のテーマと合わせて掲載しております。

キャンペーン取組みレポート テーマ一覧

	テーマ	内容例
Ⅰ 高齢者を支える	1　認知症	・認知症カフェなど認知症高齢者やその家族を対象とした事業
	2　介護予防・高齢者支援	・介護予防教室など、高齢者を対象とし、閉じこもり防止や交流を目的とした事業
	3　アウトリーチ	・高齢者や地域住民を対象とした訪問・見守り・配食活動
Ⅱ 多世代交流を支える	4　相談・家族支援	・福祉や介護に関する相談の場の提供 ・介護をする家族を対象とした講座
	5　カフェ・居場所	・多世代を対象としたカフェなど地域住民の誰もが交流や食事ができる場所の提供
	6　学びの機会	・地域住民に対する学びの場の提供
Ⅲ 地域を支える	7　地域団体との協働	・１つの施設・事業所だけでなく自治会や学校など、地域団体やその他の団体と複数で協働して行っている事業
	8　地域交流	・地域住民を招き、交流する事業
	9　防災	・防災訓練や福祉避難所など、地域の防災に関する事業

高齢者福祉施設・事業所での取組み例

いきいきプラザ・府中分梅高倉自治会合同防災訓練

地域ぐるみの防災訓練の実施を通して、防災意識の強化を進めています。（いきいきプラザ（社会福祉法人多摩養育園）・府中分梅高倉自治会／府中市）

詳細はＰ77

買い物支援

買い物への移動が難しい方に対して、買い物支援をしています。交通の便の悪い場所にある参加者のご自宅を訪れ、車でスーパーまで移動し、職員が同行しました。
（社会福祉法人大三島育徳会　博水の郷／世田谷区）

詳細はＰ58

アルツハイマーイベント「認知症」やさしい街では「認地笑」2023

アルツハイマーイベントを行い、板橋区の「認地笑かるた」の展示、フレイル予防、認知症サポーター養成講座などの企画を実施しました。
（社会福祉法人みその福祉会　ケアタウン成増／板橋区）

詳細はＰ62

4年ぶりの「つなひろ」を振り返る
～コロナ禍を経て見えてきた成果と課題～

社会福祉法人秋川あすなろ会
あすなろみんなの家
今　裕司

■４年ぶりとなったキャンペーン

“高齢者福祉・介護に関わる社会福祉法人・施設・事業所として、地域の方々に向けた活動を展開し、その実績を広く知っていただく取り組みが必要では？”といった思いからスタートした「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」。平成28（2016）年度以降、４年間にわたって取り組みを重ねていくなかで、各施設・事業所の取り組みが、地域の中で様々なつながりを生み、広がっていることを実感していました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の発生により、状況は一変しました。世の中全体が大きな変化を強いられましたが、こと重症化リスクの高い高齢者を対象とした我々の事業は、感染対策の名のもとに、他者との交わりを絶たざるを得なくなりました。

そのため、「つなひろ」の活動もキャンペーンとしては中止せざるを得ない状況が続き、気がつけば３年もの時が流れました。

ただ、この３年間も「ただ止まって」いたのではなく、“コロナ禍だからこそ”生じた（顕在化した）ニーズへの対応や、感染対策等を踏まえ工夫した取り組みの事例を集め、会員施設・事業所の参考となるような情報提供を行うなど、地域とのつながりの灯を絶やさぬように活動を続けてきました。

そして令和５年５月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが５類へと見直される方向となったことを機に、４年ぶりにキャンペーンを再開することとしました。

■今年度のキャンペーンから見えること

今年度のキャンペーンへの参加は、イベント数、参加施設・事業所数ともに、2019年度と比べ半数以下にとどまりました。

参加減少にはいくつかの要因が考えられますが、一番大きいのは新型コロナウイルス感染症だと思われます。

５類へ移行し、世の中は「以前を取り戻す」動きが一気に広まりましたが、私たちの職場環境は大きく変えるわけにはいきませんでした。感染対策には引き続き細心の注意を払う必要があり、活動の制約を緩和し広げていくことには慎重な施設・事業所が大半だったと思います。

そのため、外部の方を招き入れる、職員が出向くといった活動には踏み出せず、結果と

してキャンペーンの参加に至らなかったと思われます。
　また、コロナ禍による「空白の三年間」により、施設・事業所だけでなく、地域の団体等も、これまで築きあげ引き継がれてきた関係やノウハウ等が弱まり途切れてしまったのではないかとも考えられます。
　新型コロナ以外では、私たちを取り巻く人材不足のさらなる深刻化が、「つなひろ」のような活動への取り組みをますます困難にした一つの要因と考えられます。
　参加の減少は予測していましたが、今年度の参加実績は、新型コロナを含め施設・事業所を取り巻く環境の厳しさを改めて認識させるものとなりました。

　一方で、参加施設・事業所の取り組みからは、さまざまな工夫と成果が見られました。
　感染対策などにより開催方法を見直したもののほか、コロナ禍の経験を踏まえて新たな取り組みで参加くださった施設・事業所もありました。
　１月に行った実践報告会では、保育園等の他種別も含めた近隣法人、民間企業や大学等との協働が定着・強化されている取り組み、クラウドファンディングによる資金調達などの事例の報告があり、たくさんのヒントや刺激を得ることができました。
　実践報告会の内容は、本書にも記載していますので、皆さんにも共有していただきたいと思います。

■キャンペーンのこれから

　ワーキングチームでは、次年度のキャンペーン実施に向けすでに準備が始まっています。
　それぞれの取り組みを共有しヒントを得られるよう、見学会や実践報告会等の充実を図っていくことや、地域の方々や学校・企業などとのつながりが生まれるようなアプローチにも取り組みたいと考えています。
　感染症への対策はおろそかにはできませんが、新型コロナを「地域に向けた取り組みができない理由」にしたままではいられません。
　「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」キャンペーンが目標としている「地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまち」づくりへの貢献と、社会福祉法人や高齢者福祉施設・事業所に対する「信頼と評価」という成果を得るためにも、多くの施設・事業所の参加を期待しています。

見学会

開催内容（全３回）

第１回　なのはなサロン（武蔵野市）
　日　　時　2023年９月17日（日）　９：30〜12：30
　会　　場　社会福祉法人とらいふ　特別養護老人ホームとらいふ武蔵野
　参加人数　７名
　　※キックオフ記者会見としてメディアを対象に開催

第２回　ひなたぼっこ（品川区）
　日　　時　2023年10月26日（木）　10：00〜12：00
　会　　場　社会福祉法人品川総合福祉センター　大井三丁目憩いの場
　参加人数　３名

第３回　おがワンフェスティバル（小平市）
　日　　時　2023年11月26日（日）　10：00〜12：00
　会　　場　社会福祉法人緑友会　特別養護老人ホーム小川ホーム
　参加人数　11名

『つなひろ』キャンペーンを再開し、今年は４年ぶりに見学会を行いました。高齢者施設・事業所の仲間たちの取組みを通し、自施設のヒントとする狙いもあります。今回も３か所の見学会を実施しました。見学会では地域の実情や取組みの目的、開催にあたっての課題等、担当する職員から生の声を聞くことが出来ました。

地域と繋がり開かれた福祉施設でありたいと、手探り状態で始めた地域交流が身を結び始めた矢先に、新型コロナウイルスによる感染症が発生し、地域との交流がストップしてしまった施設も多いのではないでしょうか。この感染症も５類に移行となり、止まっていた時間が少しずつ動き出しました。また、感染症により新たな地域課題が見え、パワーアップした取組みを実践している施設もありました。

見学会には、施設・事業所の関係者だけでなく、メディア関係者の参加もあり、私たちの取組みをたくさんの方々に知って頂く良い機会にもなりました。今年の取組みが次年度に繋がり、誰もが安心して暮らせるまちへと続く一歩となることを期待します。

見学会当日の様子

なのはなサロン

イベントはボランティアの方々が中心となって運営し、事業所が協力をするスタイルで開催。参加者は、体操や歌など楽しんで活動されていました。特に印象的だったのは、ボランティアの方が活き活きと活躍されていたことです。役割を持つことの大切さを感じました。希望する参加者には、事業所の昼食が用意されます。美味しい食事を大勢で頂き、お腹も心も大満足の一日でした。
（とらいふ武蔵野／武蔵野市）

詳細はＰ72

ひなたぼっこ

本来は多世代交流を目的に調理や手工芸等の活動を行っていますが、見学会の日は、平日の午前中と言うこともあり、あいにく子供世代の参加はありませんでしたが、元気一杯の高齢者の方々と縁起の良い『菊結び』の体験をしました。担当者からは、普段の多世代交流の様子や、本来狙っていた事とは違った効果についても伺うことが出来ました。
（大井３丁目高齢者憩いの場／品川区）

詳細はＰ47

おがワンフェスティバル

寒さが堪える日曜日の朝、小川ホームには大勢の地域の方が集まっていました。模擬店やアトラクション等たくさんのブースが用意され来場者を楽しませていました。来場者だけではなく、スタッフの多さにも驚きましたが、その多くはボランティアの方でした。
このイベントは２層協議会が中心となって運営しており、地域包括支援センターとの日頃の良好な関係がイベントへ繋がっているのだと感じました。
（小川ホーム／小平市）

詳細はＰ81

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム

開催内容（2023年度実績：全７回）

第１回　2023年５月12日
　今年度活動内容確認
第２回　2023年６月５日
　募集内容確認・説明会検討・広報方法検討（チラシ・キャンペーングッズ作衛等）
第３回　2023年８月２日
　応募状況確認・見学会検討
第４回　2023年９月６日
　実施状況確認・見学会・実践報告会検討
第５回　2023年11月２日
　実施状況確認・実践報告会検討
第６回　2023年12月７日
　実践報告会検討・報告書企画検討・次年度実施計画について
第７回　2024年１月22日
　報告書企画検討・次年度実施計画について

　新型コロナウイルス感染症は今なお続いていますが、2023年５月に「５類」へ移行となり、共にこれまで途絶えていた地域交流も再開し始め、コロナ禍における新たな交流の在り方、地域貢献の在り方を各高齢者施設・事業所が模索している状況です。そうした中、キャンペーンを企画し、実施していく上で、幅広い視点・様々な角度から検討することに重きを置き、ワーキングチームのメンバーは、所属する施設･事業所の種別に偏りのない構成となっています。2023年度は、10名のメンバーで活動しました。

　今年度は、各メンバーの地域に寄り添った活動経験や身近な地域の状況等について情報交換をしながら事業計画の検討を重ね、説明会や見学会、実践報告会の運営、つなひろ通信の原稿執筆等を行ってきました。

　社会福祉法人の地域貢献が求められる中、事業に参加される高齢者施設・事業所が地域から求められる存在となるよう、ワーキングチームは、コロナ禍においても「都内の各高齢者福祉施設が福祉や介護サービスを必要とする高齢者の為だけでなく、地域

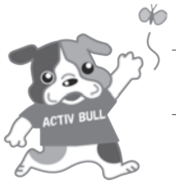
ワーキングチーム活動の様子。メディア向け見学会でつなひろキャンペーンを宣伝。

の誰もが安心して暮らせる街作りや街の活性化の為に何ができるのか」を考えていき、今後のキャンペーンの在り方、意味合い、趣旨を確認しながら活動を行っていきます。

実践報告会では、グループワークに入って一緒に考えることも。

ワーキングチームの１年

時期	主なできごと
4月	
5月	ワーキングチーム（第１回）
6月	ワーキングチーム（第２回） 説明会 キャンペーン参加施設・事業所募集開始
7月	
8月	ワーキングチーム（第３回） プレスリリース
9月	ワーキングチーム（第４回） つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン開始 見学会（第１回、メディア向け）
10月	見学会（第２回）
11月	ワーキングチーム（第５回） 見学会（第３回） つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン終了
12月	ワーキングチーム（第６回）
1月	ワーキングチーム（第７回） 実践報告会
2月	報告書作成
3月	



ワーキングチームからの声～キャンペーンをふりかえって～

※所属は2024年３月時点

大脇秀一
とらいふ武蔵野

コロナが５類に移行し、多くの事業所、施設が新たな地域との交流の在り方について動き出しているな～ということを強く感じました。その動きをもっともっと「生きた情報」として都内全域に如何に広めていくことが出来るかが今後の課題かと思います。１月12日に開催された実践報告会では、参加された方々から地域交流に対する切実な思い、熱い思いを直に感じることができました。私自身５年前に地域との更なる関わりを模索していた時に「つなひろ」を知り、即WTに応募して色々なことを学び今に活かされています。同じ思いを持たれている方は是非、一緒に「つなひろ」で活動しましょう！

小山正子
品川区立中延
在宅サービスセンター

「地域包括ケア」「共生社会」と耳にするようになり、施設が地域の一員であるために何が出来るのかと仲間と知恵を出し合い、様々な取り組みを始めました。地域の人は施設のため、施設は地域のためと良好な関係も築くことが出来ました。感染症と言う大きな試練が現れるまで…。
今年は『つなひろ』の活動から多くの希望を受取りました。時代の流れに合わせた新しい地域交流をスタートさせることも出来そうです。また一歩前進です！

相澤和彦
高田介護予防センター

コロナ禍の影響で施設を取り巻く環境や運営状況が大きく変わる中でも、地域の皆さまと活動している姿に勇気をいただきました。そして、社会福祉法人を必要としている人は地域に沢山いるし、社会福祉法人ができることは沢山あるということを改めて感じました。来年度もこの活動を通じて多くの人たちとつながり、アイデアをいただき、楽しく前に進んでいきたいと思います。そんな活動ができるワーキングチームに、ぜひ皆さんも参加しましょう！

長谷川栄司
東大和市高齢者ほっと
支援センターいもくぼ

今年度は見学会もできたのがよかったと思いました。やはり肌で感じる施設の取り組みは学ぶものが多いと感じます。実践報告会を聞いていても、妙にうなずいている自分がいたりして、我が事と思えてくるから不思議です。実際に取り組む施設の方々の姿は頼もしいし生き生きしていると思いました。ワーキングチームとしての取り組みが、自身の仕事にもいい刺激となっていることがじわじわと沁み渡ってきます。

清野哲男
府中市地域包括
支援センターあさひ苑

地域活動自体が、新型コロナウイルスの拡散防止に合わせて「つながるな　ひろがるな」と言われ続けた３年間。やっと終焉を告げたことに合わせて、また、都内各所のステキな活動を見聞きすることができました。いろいろな場所に魅力的な人の集まりがあって、いろいろな形の愛と知恵の結晶がありました。今後また、人類の経験したことのない災禍がやってきても、人間はきっと立ち直ることができるだろうと確信したことを、「つなひろWTのふりかえり」とさせていただきます。

津雪聡子
東久留米市中部包括
支援センター

ワーキングチームに参加するなかで、たくさんの地域活動を知ることが出来ました。同じような悩みを抱え、解決策のヒントを貰い、とても心強く思いました。今年は、コロナの影響もなく、他施設の取組みを見学する機会をいただけたこと、幸せに感じています。
これからも、「つなひろ」を通じていろいろなことを学び、地域とつながっていきたいと思います。

沼尾治巳
府中市立介護予防
推進センター

「つなひろ」キャンペーンで一番心に響いたのは、「協働」と「人財」です。積極的に企業と施設が協働できる仕掛作りを行っている自治体もあり、地域や企業と協働し、発展していく取組みは、とても魅力的でした。また、それを支える「人財」も大切なキーパーソンであると実感しました。

榎本朝美
東京ボランティア・
市民活動センター

つなひろに参加させていただき、５年が経ちました。コロナを経て、変わったこともたくさんあるのではないでしょうか。世の中がコロナ５類に移行してもなお、高齢者施設では、重症化リスクの高い利用者の方々のため、引き続きのご尽力の最中かと思います。
そのなかでも、工夫しながら、できるところから、地域に開いていかれる様子を拝見させていただいています。今後とも、誰もが安心して暮らせるまちづくりを、ボランティアセンターも一緒に目指していきたいです。

藤野真琴
東京都民生
児童委員連合会

今年度からWTに参加させていただき、色々な方の想いを聴いて、コロナ禍を経て形が変わっても地域とつながり続ける大切さを実感しました。
自治体や企業、民生児童委員など、様々な連携で成り立っている取り組みもあり、キャンペーンを通して、多方面へつながりが広がっているのだなと感じました。
この取り組みが、今以上にどんどん広がっていくことを期待しています！

渡邊明日香
東京都社会福祉協議会
福祉部高齢担当
（事務局）

今年度、つなひろの事務局を担当しました。高齢者福祉施設が地域とつながる様子を間近で見て、こういう取組みができるのは社会福祉法人ならではの魅力だと感じました。コロナ禍などの困難はあったものの、対策をしながら取組みを再開したところでは、人とのつながりや笑顔であふれていました。このキャンペーンのタイトル通り、地域のつながりが、今後もひろがっていくことを願っています。

今裕司
あすなろみんなの家

４年ぶりに「つなひろ」キャンペーンが実施できたことを、本当にうれしく思っています。
まだまだ新型コロナの影響が色濃く残る中でも、いろいろな取り組みが行われました。
ワーキングチームでの検討や見学会や実践報告会の場では、私自身さまざまな気づきや学びがあり、刺激を受け元気をいただきました。
この活動に関わってくださったすべての皆様に感謝するとともに、次年度以降の更なる広がりを願っています。

Ⅳ

きっとみつかる！
あなたのまちの「ちいきの輪」
～キャンペーン取組みレポート～

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2023 実施施設・事業所一覧

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
文京区	1	地域交流	特養	洛和ヴィラ文京春日	洛和メディカルフェスティバル	42
台東区	2	介護予防・高齢者支援	包括	みのわ地域包括支援センター	健脚度測定会	43
	3	相談・家族支援	デイ	みのわ高齢者在宅サービスセンター	家族介護者教室	44
墨田区	4	地域交流	デイ	すみだ福祉保健センター　高齢者在宅サービスセンター	すみだ福祉保健センターまつり	45
	5	地域団体との協働	特養	墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム	たちばなカフェ	46
品川区	6	介護予防・高齢者支援・その他（多世代交流）	デイ	大井在宅サービスセンター	大井三丁目高齢者憩いの場による各種教室	47
	7	地域交流	デイ	大井在宅サービスセンター	大井三丁目高齢者憩いの場　こすもすパーティ	48
	8	学びの機会	特養	社会福祉法人品川総合福祉センター　かえで荘	こどものつどい	49
	9	地域交流	特養、複数施設共催	社会福祉法人品川総合福祉センター　かえで荘	しなふく紅葉フェスタ	50
	10	学びの機会	その他（ボランティア団体）	クローバーの会	傾聴ボランティア講座	51
	11	地域交流	デイ	品川区立中延在宅サービスセンター	くつろぎ祭り	52
	12	地域交流	在支	品川区中延在宅介護支援センター	喫茶「せせらぎ」	53
	13	地域交流	特養	品川区立中延特別養護老人ホーム	旗が岡神社例大祭	54
	14	介護予防・高齢者支援	デイ	品川区立中延在宅サービスセンター	高齢者・介護者のための勉強会（施設の選び方）	55
大田区	15	介護予防・高齢者支援	特養、包括、デイ、複数施設共催	社会福祉法人響会	ひびき ほっとサロン	56
	16	学びの機会	養護	大森老人ホーム	高齢者体験	57
世田谷区	17	介護予防・高齢者支援	特養、デイ	博水の郷	買い物支援	58
渋谷区	18	地域交流	特養、デイ	社会福祉法人パール	パールよろず博	59
豊島区	19	地域交流	特養、軽費（ケアハウス）	菊かおる園	にしすがも友遊まつり	60
	20	学びの機会	特養、軽費（ケアハウス）	社会福祉法人七日会　特別養護老人ホーム千川の杜	杜のカフェ	61
板橋区	21	認知症	包括	社会福祉法人みその福祉会	「認知症」やさしい街では「認地笑」2023	62
練馬区	22	学びの機会	特養、包括、デイ、訪問介護、居宅介護支援事業所	第二光陽苑	出張介護教室	63
足立区	23	地域交流	特養	特別養護老人ホーム新田楽生苑	地域参加の祭り	64
	24	地域交流	特養、デイ、ショートステイ	介護老人福祉施設ケアホーム足立	あだちご近所マルシェ	65
葛飾区	※25	学びの機会	特養	東四つ木ほほえみの里	中学生の職業体験の受入れ	−
	26	地域交流	特養	癒しの里西亀有	せせらぎカフェ	66
江戸川区	27	カフェ・居場所	特養、軽費（ケアハウス）、包括、デイ	社会福祉法人東京栄和会　なぎさ和楽苑	あしたばカフェ	67
	28	その他（生活困窮者支援、フードロス対策）	特養、軽費（ケアハウス）、包括、デイ	社会福祉法人東京栄和会　なぎさ和楽苑	なぎさフードドライブ	68
	29	その他（お弁当配布（地域食堂の代替））	特養、軽費（ケアハウス）、包括、デイ	社会福祉法人東京栄和会　なぎさ和楽苑	なぎさ★キッチン	69

区市町村	No.	テーマ	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
八王子市	30	地域交流	養護、その他（同法人敷地内保育園）	養護老人ホーム楢の里	サタデーマーケット	70
八王子市	31	地域団体との協働	特養、包括、複数施設共催	偕楽園ホーム・第二偕楽園ホーム・椛の里・ファミリーマイホーム・地域包括支援センター加住	八王子介護フェア	71
武蔵野市	32	地域交流	特養、包括、デイ、その他（地域団体）	とらいふ武蔵野	なのはなサロン	72
	33	相談・家族支援	特養、デイ	とらいふ武蔵野	もしもの会	73
青梅市	34	学びの機会	複数施設共催	西多摩保健所青梅地区特定給食研究会	栄養展	74
	35	カフェ・居場所	特養	和楽ホーム	あおぞらカフェ	75
	36	地域交流	特養	社会福祉法人青芳会　特別養護老人ホーム今井苑	青梅インター周辺の清掃	76
府中市	37	地域団体との協働	その他（介護予防推進）	府中市立介護予防推進センター	いきいきプラザ・府中分梅高倉自治会合同防災訓練	77
	38	地域交流	特養、養護、包括	社会福祉法人多摩同胞会　緑苑	緑苑・安心シニア塾	78
小金井市	39	カフェ・居場所	特養	特別養護老人ホームつきみの園	つきみのサロン	79
小平市	40	地域団体との協働	特養・包括	小川ホーム	だれでも食堂「おがワン広場」	80
	41	地域交流	特養・包括	小川ホーム	おがワンフェスティバル	81
東村山市	42	地域交流	特養	白十字ホーム	第８回　八国山フリーマーケット	82
国分寺市	43	地域交流	特養	至誠ホームミンナ	語り合いサロン「ぷらっとなみき」	83
	44	相談・家族支援	デイ	国分寺市高齢者在宅サービスセンターふれあい	介護者を元気に!!「すこやか・ふれあい」介護支援教室	84
東久留米市	45	地域交流	特養、包括、デイ	シャローム東久留米	シャローム祭	85
稲城市	46	カフェ・居場所	複数施設共催	ハーモニー松葉、松葉保育園、包括支援センターやのくち	やのくち子ども食堂	86
羽村市	47	学びの機会	特養	社会福祉法人亀鶴会　特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～「神明台自習室みらい」	87
	48	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人亀鶴会　特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～　「より処」	88
	49	カフェ・居場所	特養	社会福祉法人亀鶴会　特別養護老人ホーム神明園	多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～「かふぇてりあ　はろ」	89
あきる野市	50	地域団体との協働	特養	麦久保園	地域敬老会サポート	90
	51	地域交流	デイ	あすなろみんなの家	あすなろマルシェ	91
	52	地域交流	デイ	あすなろみんなの家	ふれあいお茶飲み会	92
	53	地域団体との協働	その他（自治体・事業者団体等の協働）	あきる野市、あきる野市地域包括支援センター、あきる野市介護事業者連絡協議会	介護サービス普及啓発イベント「介護の日」	93
瑞穂町	54	介護予防・高齢者支援	特養	良友園	ふれんどサロン	94
	55	カフェ・居場所	特養、デイ、居宅介護支援、ショートステイ	社会福祉法人梅の樹会　フラワープラム	こども食堂 フラワープラム	95
日の出町	56	地域交流	特養	第３サンシャインビラ	施設の食事を知ろう会	96
	57	防災	特養	特別養護老人ホーム栄光の杜	応援協定による地域との防災訓練	97
	58	地域交流	特養	特別養護老人ホーム藤香苑	みんなのホッとランチ	98
檜原村	59	介護予防・高齢者支援	特養	桧原サナホーム	とびっこクラブ	99

「No.」に※印のある事業・イベントについては感染症の影響等により中止となった事業・イベントとなります。

No. 1 文京区 特養 地域交流

洛和ヴィラ文京春日

洛和メディカルフェスティバル

■開催日程　10/15　10：30～14：30
■参加団体　洛和ヴィラ文京春日、文京大塚みどりの郷、文京大塚高齢者在宅サービスセンター、大塚みどり保育園、学習支援なごみ
■参加人数　110名

実施の目的

地域に対しての社会貢献
地域住民への当会のアピール

当日の様子

当日はあいにくの雨であったため、来場者数は見込んでいた300名を大幅に下回ってしまった。

射的、お菓子すくい、ヨーヨー、ポップコーン、らくの助提灯づくり（洛和会公式キャラクター）などを実施した。

事前にチラシを配布したこともあり、雨ではあったが、チラシを見て来てくれたりする利用者も多かった。

天井付きの駐車場で実施したため雨に濡れることはなかった。参加してくれた方たちは楽しそうに参加し、人数は少なかったが盛り上がった。

地域の課題や今後の課題

今後も地域とのかかわりを大切にしながら、地域の活動にも参加していく。
また、次年度は地域の社会福祉団体にも声かけて、規模を大きくしていきたい。

No. 2　台東区　包括　介護予防・高齢者支援

みのわ地域包括支援センター
健脚度測定会

■開催日程　毎週木曜日開催（年末年始はお休み）
■参加団体　転ばぬ先の健康サポーター、老人福祉館職員、台東社協、㈱ヤマシタ
■参加人数　今年度４月から９月末まで　約150名

実施の目的

地域の高齢者の健康意識を高めフレイルの予防をおこなう。

地域の介護予防教室やイベントの案内をおこない、介護予防の中核となる老人福祉センター、老人福祉館と連携を図る。地域の高齢者の実態把握。

当日の様子

来館した高齢者に所定の場所を５メートル歩行してもらい、歩行の様子をスマートフォンで撮影し歩行測定アプリで解析をおこなう。歩行の速度、ふらつき、左右差、リズムを各５点満点合計20点で評価する。個々の歩行について改善点のアドバイスと、おすすめの体操をおこなっている。測定後、転ばぬ先の健康サポーターが体操の指導も行う。地域の高齢者からは「毎週やっていて、予約もなしでできるので気軽によれる」「健康サポーターや偶然居合わせた人とのおしゃべりが楽しい」「介護予防の情報等があるので役に立つ」といった意見がある。

地域の課題や今後の課題

誰でも気軽に立ち寄れる場なので今後も毎週木曜日に継続していき、地域の方にフレイル予防を啓発していきたい。

No.3 台東区 デイ 相談・家族支援

みのわ高齢者在宅サービスセンター
家族介護者教室

■開催日程　11/27　14：00～15：00
■参加団体　みのわ高齢者在宅サービスセンター
■参加人数　10名

実施の目的

　みのわ高齢者在宅サービスセンター利用者家族、特に認知症介護関係者を対象とした家族介護者教室と、地域包括支援センターが実施する認知症カフェを合同で行う。

当日の様子

　みのわカフェ（地域包括支援センター）と合同で家族介護者教室（デイサービス）を開催した。参加者は10名、スタッフは包括１名デイサービス２名実習生２名であった。12月も近いとのことでクリスマスツリー作成をしながらの会話となり、参加者の会話の中から出てくる介護情報に耳を傾けスタッフが個別に対応する場面もみうけられた。

地域の課題や今後の課題

　参加した方から、このような機会があると同じような介護で悩んでいる方がいる事を知り、「共通の話が出来て少し元気が出てきました。」など感想が聞こえてまいりました。この集まりからスタッフとも面識ができて直接相談事がくることも増えてきたため、定期的に開催していく方向で検討中です。

No.4　墨田区　デイ　　地域交流

すみだ福祉保健センター　高齢者在宅サービスセンター
すみだ福祉保健センターまつり

■開催日程　11/18　10：30～14：00
■参加団体　すみだ福祉保健センター各事業所（高齢者在宅サービスセンター、こうめ高齢者支援総合センター、はばたき福祉園（生活介護）、みつばち園（児童発達支援センター））、園芸サークル、「みんなの作品展」参加団体・個人
■参加人数　257名

実施の目的

センター事業のPRや地域との交流を目的とし、４年ぶりの開催で縮小版で行うが、新しい取り組みとして、ふくしマルシェ（ミニ）を行う。（今後は、地域住民や関係機関を巻き込んだ交流の場として位置付ける予定。）

当日の様子

包括支援センター主催の地域向けの「みんなの作品展」を16日から開催し、18日は同時開催となった。そのため、作品を見に来場する地域住民もおり、縮小版で開催したにも関わらず、想定より来場者が多かった。またワンフロア開催にしたため、回りやすそうだった。

まつりの内容としては、事業紹介、作品の展示、ミニふくしマルシェでの物販（生活介護施設での作品、園芸サークルの野菜等の苗）、障害児の体験コーナー等が効率よく見て回られていた。地域住民、利用者、ご家族、関係機関の方々等幅広い年齢層の方が来訪した。

地域の課題や今後の課題

次年度も引き続き、センターまつりを開催予定であるが、今後も地域とのつながり、連携を確実なものとしていきたい。地域の課題解決での買い物難民等の件も踏まえ、センター事業の紹介だけでなく、ふくしマルシェを核に据えた対応を念頭に検討していきたいと考えている。通常の業務を並行して実施しているため、職員の配置等の対応が難しいと感じたが、センター内全体での共同作業となり、内部連携を高めるのにも役立つと捉えている。

No. 5　墨田区　特養　地域団体との協働

墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム
たちばなカフェ開催

■開催日程　①９/29　10：30～11：30
　　　　　　②11/24　10：30～11：30
■参加団体　重度障がい者通所施設「ステップハウスおおぞら」、ぶんか高齢者みまもり相談室
■参加人数（のべ）　34名

実施の目的

今年度、重度障がい者通所施設さんと共同作品作りや、地域交流スペースでの交流を深める中で、秋ごろに「たちばなカフェ」を立ち上げ、定期的に利用者同士の交流を開催する。

当日の様子

１回目（９/29）は、コーヒーとケーキを食しながら、特養利用者とおおぞら利用者が自己紹介や、共同作品完成お披露目会をした。特養利用者と重度障がい者の交流は初めてであるが、会話が進まなくても笑顔もみられ楽しい交流時間となった。会話の代わりに身振り手振りで表現しているのが印象的だった。

２回目（11/24）は特養利用者とおおぞら利用者の他に地域住民２名も参加し、地域住民が持参した折り紙で、和気あいあいと折り紙を織った。２回目もコーヒーとケーキを全員で食した。

地域の課題や今後の課題

地域には様々な人が生活しており、コミュニティを形成している。しかし、特養の入所者や重度障がい者施設の方は、施設というコミュニティはあるが、自分が暮らす地域のコミュニティに入る機会はあまりない。今回、新型コロナウイルスが５類になったことで、施設で生活する高齢者も障がい者も分け隔てなく地域住民というカテゴリーで、地域とつながっていく機会を作ることができた。「たちばなカフェ」は、今後も月に１度の定例開催として、どんな人でもつながって輪が広がるようなカフェを目指していきたい。

No.6　品川区　デイ　介護予防・高齢者支援・その他（多世代交流）

（実施者）社会福祉法人品川総合福祉センター
大井在宅サービスセンター（地域福祉課）

大井三丁目高齢者憩いの場による各種教室

■開催日程　教室によって、午前１～２時間。午後も１時間から２時間と教室によって開催時間は異なる。

■参加団体　運営協力者・講師等
・日本園芸療法研修会
・よりみち（支え愛ほっとステーション）・ほっとサロン
その他講師

■参加人数（のべ）（令和５年度）3722名

実施の目的

高齢者の介護予防および健康の維持･増進ならびに生きがいづくりを支援すると共に、高齢者と多世代の方々が利用・交流できる地域に開かれた施設です。

当日の様子

月曜：AM：MCIプロジェクト（認知症予防プログラム）年20回
PM：園芸療法（年20回×前期・後期）
火曜：AM：ほっとサロン（月2から３回）
PM：ピンコロ道場（毎週）
水曜：地域ミニデイ（ケアマネジメントによるサービス）
木曜：AM：自分力アップ講座（専門職講師を招いて学んだり体験など）
スマホ個別相談・脳活スマホ教室各月１回
PM：よりみち（支え愛ほっとステーション）毎週
金曜：AM：区のスマホ教室
PM：ピンコロ道場
土曜：ひなたぼっこ（多世代交流教室）工作や料理　月２回

地域の課題や今後の課題

介護予防を楽しく行える場所として、ニーズを確認しながら、新しい企画を模索していく。一人暮らしの高齢世帯、引きこもりの防止の意味でも、気楽に立ち寄れる憩いの場をめざしています。

No.7　品川区　デイ　　地域交流

（実施者）社会福祉法人品川総合福祉センター
大井在宅サービスセンター（地域福祉課）

大井三丁目高齢者憩いの場　こすもすパーティー

■開催日程　9/30　10：00～13：00
■参加団体　ほっとサロン、東京在宅サービス、クリーン薬局、青横ファーマシー、よりみち（支え愛ほっとステーション）、明治安田生命保険相互会社
■参加人数　155名

実施の目的

地域に開かれた施設として、新規利用者へのPRや地域住民（全世代）との交流を図る場として「こすもすパーティー」を再開し、サービスのニーズヒアリングの機会としても活用する。

当日の様子

・パン工房プチレーブの惣菜パン・焼き菓子等販売
・かもめ園・さつきの利用者作品販売
・アンケート記入交換で来場者に野菜詰め合わせセットプレゼント（先着50名様）
・健康活動コーナー（先進機器で健康チェックと専門職からのアドバイス）
（企業ボラ２社・栄養士・薬剤師等）
・体験コーナー（30～45分位ずつ交代）
・ほっとサロン「大井キャロットクラブ」…手作り体験
・企業ボランティアさんによるマッサージ体験

地域の課題や今後の課題

介護予防を楽しく行える場所として、ニーズを確認しながら、新しい企画を模索していく。一人暮らしの高齢世帯、引きこもりの防止の意味でも、気楽に立ち寄れる憩いの場をめざしています。

No.8 品川区 特養 学びの機会

社会福祉法人品川総合福祉センター　かえで荘（地域福祉課）
こどものつどい

■開催日程　8/5　10：30～12：00
■参加団体　プルデンシャル生命保険株式会社品川第一支社・大崎第一支社、NPO ICT救助隊、紐結び研究家
■参加人数　40名

実施の目的

地域の関係機関・教育機関と連携し、日本伝統文化の「結び」やひもの扱い方を楽しく学び、施設の高齢者・障害者と共に関わる中で、思いやりを醸成し、青少年の福祉教育や地域福祉の向上を図る。

当日の様子

対象者：八潮近隣の小学生～中学生　20名
①本部１階ロビー：TVモニターとPCを接続して、講師を招いてひもの結びを学ぶ。
②本部１階多目的室：大型モニターでゲーム太鼓の達人を行う。
③ゲーム「ボールを転がせ‼」
距離により的へボールを転がす。的の大きさと得点ごとに景品を渡す。
④お帰りの際、お菓子やプレゼントを配布する。

講師以外に企業ボランティアさんのフォローでゲームや子供対応を行う。障害高齢者も一緒にゲームを行っている。

地域の課題や今後の課題

地域住民の高齢化、一人暮らし高齢者世帯・生活困窮者世帯・貧困・ヤングケアラー等。社会福祉法人として地域の課題やニーズにどう向き合っていくか検討していく。

「こどものつどい」名称的に集まってくるのは小学生低学年が多い。もう少し上の学年など、幅広い年齢層を集客する場合は、ネーミングの検討が必要。

子供と高齢者の関わりは、同じ空間で自然に関わることで、共助の空間が生まれ、笑顔があふれる。継続していきたい。

No.9 品川区 特養、複数施設共催 地域交流

社会福祉法人品川総合福祉センター　かえで荘（地域福祉課）
しなふく紅葉フェスタ

■開催日程　10/22　13：00～15：30
■参加団体　プルデンシャル生命保険株式会社品川第一支社・大崎第一支社、モノ・物・もの八潮ハーモニー、青横ファーマシー・クリーン薬局、関東電気保安協会、児童相談所、明るい選挙推進協会、八潮学園吹奏楽部、八潮太鼓之会、森のひかり、NPOみんなの食堂、明治安田生命保険相互会社
■参加人数　約400名

実施の目的

①地域の方々に感謝の意を表し、地域交流の機会とする。
②施設ご利用者の文化的な活動を推進し、自己実現の機会を増やしていく。
③参加型のプログラムを行い、共に楽しみ、地域住民と施設利用者との相互理解を深める。
④地域住民に広く周知し、区民相互の地域のつながりを強化し、支え合いや協力体制を構築していくと同時に、地域福祉力向上を図る。

当日の様子

地域で活躍している「八潮太鼓之会」、地元の「八潮学園の吹奏楽部」、「手話舞踊」、施設障害利用者による「リズム舞踊」の演目。「着物リメイクファッションショー」では、地域の団体・八潮ハーモニーさんが100着近く作られたリメイク着物を提供くださり、それを施設利用者・職員と地域住民の方が着て、赤いじゅうたんのランウェイを歩いた。地域とともに楽しみ、参加した障害者・高齢者も、見ている来場者も皆、笑顔になった。先進測定機器で骨密度や血管年齢を測る機械などを設置し、薬剤師・管理栄養士に助言をもらえる「健康測定コーナー」、「水引ワークショップ」「無料野菜詰め合わせプレゼント」「ノベルティ商品無料」各種模擬店などがあり、大好評に終了。

地域の課題や今後の課題

地域住民の高齢化、一人暮らし高齢者世帯・生活困窮者世帯・貧困・ヤングケアラー等。社会福祉法人として地域の課題やニーズにどう向き合っていくか検討していく。

No.10　品川区　特養・その他（ボランティア団体）　学びの機会

傾聴ボランティアクローバーの会・品川区立中延特別養護老人ホーム
傾聴ボランティア講座

■開催日程　①10/19　13：00～16：00
　　　　　　②12/14　13：00～16：00
■参加団体　傾聴ボランティア　クローバーの会、中延高齢者複合施設、地域住民
■参加人数（のべ）　20名

実施の目的

　傾聴ボランティアクローバーの会（品川区内の福祉施設で活動中）メンバーのスキルアップを目的とした講座であると共に、広報誌で区民に参加を呼びかけ、傾聴ボランティアを始めるきっかけ作りを目的としている。

当日の様子

　２部制で実施し、一部は中延複合施設職員による高齢者のケア（介護の疑問）について、対話形式で参加者の何故？に応える形で実施。二部はクローバーの会スーパーバイザーを講師に迎え傾聴の基礎を学んだ。
　参加者の発言も多く、達成感のある講座となった。

地域の課題や今後の課題

　傾聴ボランティア講座は数年前より、法人で協力し開催を実施している。入門講座を開催することで、その後のボランティア活動へと繋げることができ、区民向けのコミュニティーカフェ等で活躍している。元気な高齢者層の活躍の場としても有益であるため、今後も協働して開催したい。

No.11 品川区 デイ

地域交流

中延高齢者複合施設
くつろぎ祭り

■開催日程　10/14　11：00～14：30
■参加団体　社会福祉法人 福栄会、中延高齢者複合施設
■参加人数　200名

実施の目的

施設利用者と地域住民の交流を図る

当日の様子

オープニングアトラクションとして近隣小学校の金管バンドへ演奏を依頼したため、同校の児童やPTA等、若い世代の参加者が多かった。近隣の障害者施設の協力も得て模擬店等開催し、福祉施設関係者と地域住民の交流が図れた。

地域の課題や今後の課題

開設25年になるが、まだまだ若年世代には施設の存在が浸透していない。イベントを通し、若年世代との交流を図りたい。また、福祉施設やそこで働く職員の姿を見て、将来、福祉の仕事がしたいと思ってもらえると良い。

No.12 品川区 在支 地域交流

中延高齢者複合施設
喫茶『せせらぎ』

■開催日程 毎月第三木曜日　13：00～16：00
■参加団体 傾聴ボランティア　クローバーの会、中延高齢者複合施設、明治・安田生命保険相互会社
■参加人数 毎月10～25名

実施の目的

高齢者や障害者、地域住民の居場所作りとして実施。気軽に集える場所として定着させる。

当日の様子

コーヒーとパン（実費で提供）を用意し、食事を誘い文句に開始した。回を重ねる毎に参加者も増え、お話を楽しみに来館されていた。始めての方が興味をもち参加できるよう、イベント的な内容も盛り込んでいる。

傾聴ボランティアサークルに協力頂いているため、始めての参加でも、気軽にお話ができる雰囲気になっていた。

地域の課題や今後の課題

特に介護の必要はないが、人との交流が減少している高齢者が多くいることが分かった。気軽に集える場所が必要だが、月１回では少なく感じる。

協力して頂いているボランティア自身も高齢者となりつつあり、生きがい活動の場としても良いと感じている。

No.13　品川区　特養　地域交流

品川区立中延特別養護老人ホーム・中延６丁目町会
旗が岡神社例大祭

■開催日程　9/9　13：00～20：00
■参加団体　中延６丁目町会、荏原町町会、中延高齢者複合施設
■参加人数　200名

実施の目的

地域のお祭りを施設関係者も含めて盛り上げる。（地域の一員としてお祭りに参加する）

当日の様子

日中に渡御する子供神輿及び山車は、施設前を出発・到着地として、利用するお年寄りにその勇姿を元気よく披露している。渡御後は施設の駐車場にて施設名物のかき氷を振る舞い、子供達との交流を行っている。

夜は盆踊り会場となり、地域の方々が盆踊りを行っている。施設入所者も一緒に見物・踊りの輪に加わり地域の一員として参加している。

地域の課題や今後の課題

お祭りの担い手（中心となって取り仕切る）も若者に世代交代しており、滞りなく実施されているが、今まで中心となって活躍してきた高齢者の中には喪失感を感じている方も多く存在する。高齢者でもお祭りの担い手として活躍できる場を用意し、達成感を得られるようにして行きたい。

子供神輿終了後の子供達へのねぎらいの場を高齢者と企画する。

No.14　品川区　デイ　　介護予防・高齢者支援

品川区立中延在宅サービスセンター
施設の選び方

■開催日程　7/29　14：00〜15：30
■参加人数　14名

実施の目的

在宅生活と施設入所どちらが良いのか？と相談されることが増えたため、要介護状態となった時の居場所についての情報提供を行い、考える時間を持った。

当日の様子

現在、入所検討中の介護者（家族）や元気な高齢者、介護支援専門員が参加している。施設の種類を詳しく説明する中で、申し込みをする施設について、参加の家族間で意見交換する姿も見られた。また、元気な高齢者が、この先の生活について考えるきっかけとなった。『終活』について参加者同士で話すことが出来、参加者には好評だった。

地域の課題や今後の課題

介護保険サービスや自治体の高齢者サービスについて意外と周知されていないことが分かった。元気な高齢者が要介護状態となった時の生活に対する不安や、将来に備えて自分がどうしたいのか意思決定できるよう、今後も情報提供や意見交換する場を持ちたい。

No.15 大田区 特養、包括、デイ、複数施設共催 介護予防・高齢者支援

社会福祉法人響会
ひびき ほっとサロン

■開催日程　11/19　10：00～11：00
■参加団体　社会福祉法人響会
■参加人数　32名

実施の目的

地域の高齢者の方の、「ほっとできる」「ホットな」交流の場として開催。

今は、支援を必要としていない地域の一人暮らし高齢者、又は高齢世帯の方々に対して、孤立感の解消の支援を目的とする。

当日の様子

法人職員によるグループ「bel suono～美しい響き～」による演奏会を行った。地域の高齢者が参加され、ピアノ・ギター演奏＆歌声に耳を傾け、口ずさむ様子があった。アンコールの声も上がり盛況となった。日曜日の開催であったが、定員を上回る予約があり、受け入れを行った。参加者同士、声を掛け合い近況を語り合う様子もみられ、心地よいひと時と、交流の機会になった様子であった。

地域の課題や今後の課題

参加者数名より「日曜日も何もやることが無いので、またこのような機会があると良い。」「自分達は日曜日も平日も然程関係ない。」とお話をいただいた。引続き、交流の機会を設け、参加者同士がつながれるアシストをしていきたいと思う。

No.16 大田区 養護 学びの機会

東京蒼生会　大森老人ホーム
高齢者体験

■開催日程　11/16　8：50～11：45
■参加人数　57名

実施の目的

　小学生、中学生に分かりやすい高齢者体験を実施し、高齢者への理解、高齢化社会の基礎知識を理解してもらう。地域の高齢者を意識してもらう。施設のことを理解してもらう。

当日の様子

〇資料『日本の高齢化について考えよう』
内容・平均寿命・高齢化社会・他の国の高齢化社会について
　　・日本が取り組んでいる施策について
　　・高齢になったら減るもの、増えるもの・施設の概要
〇高齢者体験
内容・ゴーグルを利用し白内障・視野の狭さを体験
　　・車イスの体験・声かけの大切さを体験
体験後、高齢者の皆さんがスーパーのレジでゆっくりな行動であっても理解してほしいと伝えると頷いてくれていた。

地域の課題や今後の課題

　新型コロナ感染症の影響で、対面で行うのは４年ぶりとなった。毎年行っていたものを一度中止したことで、再開する際には新たに学校への説明をさせていただき再開となった。
　対面で行えなかった間は、学習ワークに変更し行っていた。
　包括支援センターが行う『認知症サポート講座』も今年度から再開となる予定

No.17 世田谷区 特養、デイ

介護予防・高齢者支援

博水の郷
買い物支援

■開催日程　9/12　10：30～12：30
■参加団体　博水の郷
■参加人数　２名

実施の目的

買い物難民といえる駅から遠く、スーパーなどへの移動が難しい方が多く、その方たちの買い物支援

当日の様子

喜多見団地内のご自宅を訪れ、参加者を車に案内した。
車でスーパまで移動、デイサービス職員も同行し車内の雰囲気を和やかにした。
スーパー到着後、それぞれ（２人）の方に職員が２人つき買い物を行った。
久々に色々選べることを楽しまれていた。また、ご家族から頼まれた商品を一生懸命探されて購入している。
買い物終了後、少しベンチで休憩して車でご自宅に戻った。
買い物の買った量が多く、ご自宅まで届けている。

地域の課題や今後の課題

買い物難民は、多くいると想定されている。活動の頻度を多くした方がニーズを叶えられるのではと考えている。
１団体だと活動日数が限られるので、他にも参加団体を増やしていく必要があると考える。
また、周知活動がどこまで出来ているかの不安があるので周知活動を強化していく必要がある。

No.18　渋谷区　特養，デイ　地域交流

社会福祉法人パール
パールよろず博

■開催日程　①11/27　10：00～16：00
　　　　　　②11/28　10：00～16：00
■参加団体　社会福祉法人パール（社会福祉活動教育研究所）
■参加人数　100名

実施の目的

地域住民・関係機関等の皆様に社会福祉法人パール「福祉総合プラザ」に直接足を運んでいただき、施設内や職員の業務を見て頂くことで、パールの役割・意義をより理解していただき身近な存在として認知して頂く事を実施目標とする。

当日の様子

両日とも「館内案内ツアー」「パールの食事・試食コーナー」等へのご参加を目的に、午前中より多くの方々に足を運んでいただいた。「親がデイ利用者ですが、日頃過ごしている場所を見ることができ、より親近感が湧きました」「近隣の者ですが、館内を知ることで将来利用したいと思いました」等のご意見をいただいた。その後は利用者の方々が制作した作品鑑賞や「マッサージ」「ハンドケア」「介護用品体験」等盛り沢山のプログラムを堪能していただいた。居宅支援事業所スタッフによる「おでん処」も大好評で早々に完売。２日目には妖怪アイドル「100yokai」のミニ・ライブも行われ、世代間交流が図れ大いに盛り上がった。

地域の課題や今後の課題

地域の元気な高齢者が集まる場所・機会が少ない。当法人で行っている地域のたまり場「パールライフ」（週３回実施）の出張版なども再開したい。

No.19 豊島区 特養，軽費（ケアハウス） 地域交流

区民ひろば西巣鴨運営協議会
にしすがも友遊まつり

■開催日程　10/7　13：00～15：30
■参加団体　西巣鴨新田町会、庚申塚町会、西巣鴨小学校及びPTA、子どもスキップ西巣鴨、大正大学、淑徳巣鴨中学高等学校、巣鴨北中PTA、第一地区青少年育成委員会、巣鴨地区民生児童委員会、巣鴨庚申堂奉賛会、庚申塚商栄会、豊島区民社会福祉協議会、菊かおる園、小菊の家
■参加人数　313名

実施の目的

地域における世代間交流
豊島区が推進するSDGsの普及啓発　等

当日の様子

＜オープニングセレモニー＞
■区長挨拶　■西巣鴨小学校児童有志による「にしすっ子ダンス」
＜区民ひろば西巣鴨館内＞
■SDGsコーナー　■防災・ゴミ分別コーナー　■ダーツ　■ソースせんべい
＜西巣鴨二丁目公園＞
■モンキーボーリング　■チャンスボール　■千本つり　■カフェ　■氷ジュース
■昭和の遊びを楽しもう　■鉄道模型
＜当日の様子＞
　子供、親子、高齢者それぞれ参加者が各コーナーやゲーム等を楽しみ、特に昭和の遊びコーナーでは、子供たちが遊び方を教わる世代間交流が見られた。

地域の課題や今後の課題

　運営協議会における町会等の地域選出メンバーが高齢化しており、子育て世代や子供を含めた若い世代の参加が増えるよう、方策を検討していく必要がある。

No.20 豊島区 特養，軽費（ケアハウス） 学びの機会

社会福祉法人七日会　特別養護老人ホーム千川の杜
杜のカフェ

■開催日程　①9/2　10：00～11：00
②10/14　10：00～11：00
毎月１回　土曜日　10：00～11：00
■参加団体　（社福）豊島区民社会福祉協議会
■参加人数（のべ）　29名

実施の目的

地域の高齢者や介護者等の憩いの場として、情報交換の機会を提供します。また、福祉の力を必要とする方を見逃さない為、相談支援も行っています。必要な方には、在宅での見守り活動を提供します。

当日の様子

日々、新しいことを学びたいという気持ちとこれからの不安や制度についての疑問などを解決する為、茶菓子を召し上がりながらのんびりとした雰囲気の中、毎回テーマを決めて講義形式で行っています。９月は『ケアマネージャーって何してくれるの？』、10月には『いろいろな場面で使える介護用品』、11月は豊島区民社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーにお越しいただき『いろいろな介護保険以外のサービス』というテーマで講演していただきました。皆さんメモを取ったり、時間いっぱいまで盛り上がっていました。

地域の課題や今後の課題

高齢者のみの世帯が多い地域です。豊島区の高齢者支援は介護保険外サービスも多く、充実しています。新たな種類のサービス提供よりも現在あるサービスの拠点を増やすことが望ましいと感じています。その一端となれるようなサービス展開を検討実施していきます。

No.21　板橋区　包括　　　　　　　　　　　　　認知症

ケアタウン成増（支え合い会議成増　生活支援コーディネーター）「認知症」やさしい街では「認地笑」2023

■開催日程　①9/5　11：00～16：00
　　　　　　②9/6　10：00～16：00
■参加団体　成増地区シニアクラブ、成増地区町会・自治会、成増地区民生児童委員、介護保険事業者、多比良医院、伊勢歯科医院、成増図書館、アイセイ薬局、板橋区職員、社会福祉協議会職員、成増おとしより相談センター、三園おとしより相談センター、認知症家族会、支え合い会議第２層のメンバーなど
■参加人数（のべ）　100名

実施の目的

認知症についての正しい知識を広めることと、認知症を我が事としてとらえる。認知症になっても住み慣れた地域でできるだけ長く過ごせるように、地域で支える視点を伝えることを目的とした。

当日の様子

板橋区で認知症のことに関して記されている「認地笑かるた」の展示や、図書館で行われたアルツハイマーイベントの書籍の紹介。薬局の協力により認知機能チェック。認知症の正しい知識や予防関連の情報提供。認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の開催。

認知症家族会のメンバーや認知症希望大使を招いての座談会の開催など、内容盛りだくさんで行っている。イベントに訪れた方からは、「認知症のことがいろいろ勉強できた」「認知症予防で仲間と会う機会は大切ね」など、たくさんの声が聞かれました。

地域の課題や今後の課題

参加者からは「誰もが認知症になる可能性があるから、これからも勉強していったり、仲間同士で声かけあったりしないとね」との声があった。

今後、高齢者の数が増えるとともに、認知症の方の数も多くなると思われる。認知症になっても地域で安心して過ごせるためには、認知症の正しい知識を拡げるとともに、認知症の方を地域で支えることの重要性を伝えていきたい。

No.22　練馬区　特養、包括、デイ、訪問介護、居宅介護支援事業所　学びの機会

社会福祉法人泉陽会　第二光陽苑

出張介護教室

■開催日程　10/27　9：30〜12：30
■参加団体　練馬区立関町北小学校、セントケアりまいん練馬（福祉用具事業所）、第二光陽苑
■参加人数　100名

実施の目的

高齢者の福祉施設・事業所としての専門性を活かし、地域の子供たちに、高齢者の身体的特性や認知症、介護について学ぶ機会を提供する。

当日の様子

小学５年生児童を対象に下記を実施
①認知症サポーター養成講座
②車椅子体験教室
③高齢者疑似体験教室

生徒の皆さんは、熱心に興味を持って各授業に参加してくれた。授業実施後には出張介護教室の感想を記した文集を送ってくれた。

地域の課題や今後の課題

コロナ禍で途絶えていた地域交流を再開してきている。今後は、より積極的に近隣の町会・自治会や学校・保育園等と交流を持ち、多様な地域貢献を行っていく。

No.23　足立区　特養　　地域交流

特別養護老人ホーム新田楽生苑
地域参加の祭り（新田しまなみ祭り）

■開催日程　10/15　11：00〜15：00
■参加団体　NPO法人スマイルリンク、龍虎会、いきなりステーキ、パパクレープ、ふくまる
■参加人数　150名

実施の目的

新規立ち上げのため地域に法人を知ってもらい、地域に根差した活動をしていくため、地域の方が気楽に立ち寄れる場所として認知してもらう。

当日の様子

交流カフェ内にて利用者様と職員の制作物、展示物の展示会、移動販売ふくまるによる介護施設の買い物の様子、広島の名産の販売、ステーキ、クレープの販売を行い地域の皆様が特養の雰囲気を食事をしながら楽しんでもらいました。

龍虎会による太鼓の演奏会を地域の住民、特養の入居者のみなさんで楽しく聞いていただく姿がありました。多くの人があつまり、100食以上召し上がっていただき大変うれしく思います。

地域住民のかたも、老人ホームに来ているように感じない、また近くに来たら寄ってみたいとの声を頂きました。

地域の課題や今後の課題

新田の地域は共働きや、ひとり親の家庭も多く子ども食堂を開いて少しでも家庭の負担を減らし、暮らしやすい社会の創生に寄与していきたいと思います。

No.24 足立区 特養、デイ、ショートステイ

地域交流

介護老人福祉施設ケアホーム足立

あだちご近所マルシェ／同時開催「みんなでやろう！あだちらくらく体操～フレイル予防で介護予防～」

■開催日程　9/23　11：30～14：30
毎月第２木曜日、奇数月第４土曜日　11：30～14：30

■参加団体　tgcg（ツリーグリーンコイグジストガーデン）、cocokaRa Co.乃梨子、顔タイプ診断、足立区アレルギーの会hoop、babyhip、重心道Ayase、宇宙人カフェRamooon、モカキッチン、平成デイサービスセンター足立

■参加人数　40名

実施の目的

感染予防対策を実施しながら地域交流及び地域公益活動を継続するため、敷地内駐車場を利用して他の社会福祉法人や地域活動団体による販売会を開催。施設利用者だけでなく誰でも利用可能。

当日の様子

11：30にご近所マルシェの各ブースがオープンすると、近所の親子連れの方や川口市の放課後デイの御一行様など、子供たちがたくさん来てくれて賑やかな雰囲気となりました。午後からはデイサービスの利用者様による「きまぐれバリスタコーヒー」も開店！会場の皆様に、手挽きドリップコーヒーをふるまって頂きました。14時からは「みんなでやろう！あだちらくらく体操～フレイル予防で介護予防～」と題して介護予防イベントを実施。参加賞20名分もあっというまになくなる盛況ぶりでした。

地域の課題や今後の課題

今後は地域包括支援センターとも連携し、マルシェと同時開催で認知症に関するセミナーなども開催していきたい。

No.26　葛飾区　特養　　地域交流

特別養護老人ホーム癒しの里西亀有
せせらぎカフェ

■開催日程　13：30～15：00　月に３回実施（月曜日固定）
■参加人数（のべ）　約20名

実施の目的

「地域と地域のつながり」をテーマに掲げ、施設と地域のつながりを持ち地域貢献活動の１つとして活動。コロナ禍でもあった為、感染対策を徹底し繋がりを継続させる。（令和３年10月からせせらぎカフェ開催）

当日の様子

開催当日は20名程参加された。多くの地域住民の方が参加して頂いたため、施設の中を見学して頂くイベントを行った。施設が令和２年８月にオープンしたばかりの為、施設内がどのようになっているのか気になっている方が多かった。ホテルみたいでキレイとお話を頂いたり設備の機械に驚かれる方もいた。

地域の課題や今後の課題

せせらぎカフェ開催から２年ほどたったが、リピーターの方が大半で数名新規の方が参加して頂いている。女性の方のみで男性の参加者が０名である為、男性の方に声掛けを行っている状況。また、高齢の方限定ではなく、地域住民対象者の為、子供や若い方もせせらぎカフェに参加できるように呼び込んでいく必要がある。個々の課題については包括と協力し情報発信を行っているが、地域全体の課題の把握が出来ていない。地域（自治会）ごとに特性がある為、コーディネーター役や地域の活動に参加して地域の活性化に協力していく必要もある。

No.27 江戸川区 特養、軽費（ケアハウス)、包括、デイ カフェ・居場所

社会福祉法人東京栄和会　なぎさ和楽苑
あしたばカフェ

■開催日程　10/15　13：30～15：30
■参加団体　なぎさ和楽苑、若年性認知症支援事業家族会（あしたば会）
■参加人数　30名

実施の目的

若年性認知症の当事者（メンバー)、家族、職員、ボランティア、地域の方がカフェを通じて交流し、認知症への理解を深める。コロナ前は不特定多数の方が参加し、当事者や家族がコーヒー淹れの給仕やウェイター・ウェイトレスを担い、やり甲斐や楽しみに繋げていた。

当日の様子

当日の主なプログラムは、メンバーのアート作品が展示されている区民館からの中継と（当日地域まつり実施)、芋ほりを実施。中継では現地からの映像を会場のスクリーンに投影し、メンバーから感想を頂いた。当苑５Ｆの平和菜園で育てた芋の収穫では、子供の頃にやった事がある方も、初めての方も苦戦しながら楽しく参加ができた。合わせて準備していた焼き芋に舌鼓を打ち参加者から楽しかったとの感想を頂いた。その他、家族、メンバー同士、日頃の悩みを吐露したり、情報交換など交流の場となった。

地域の課題や今後の課題

以前のあしたばカフェは、不特定多数が交流スペースで気軽に参加出来るカジュアル感があった。役割分担も大まかは決めているものの、メンバーや家族からの要望に臨機応援に対応していた。初めて参加される当事者、家族は若年性認知症支援事業を知る機会となり、その後のサービス利用や家族会への参加に繋がることも多くあった。コロナ５類移行となり、徐々に集合型のイベントが再開される中、感染症対策を取りつつ、参加される方々の目的に沿ったイベントになる様、皆で考え実践していきたい。

No.28　江戸川区　特養、軽費（ケアハウス）、包括、デイ　その他（生活困窮者支援・フードロス対策）

社会福祉法人東京栄和会　なぎさ和楽苑
なぎさ☺フードドライブ

■開催日程　①11/６　９：00～18：00
②11/18　９：00～18：00
年間５回（３月・５月・７月・11月・12月）の各１週間程度の開催。
■参加団体　なぎさ和楽苑職員、当苑ボランティア団体　たんぽぽ
■参加人数（のべ）　46名

実施の目的

コロナ禍により中断した「なぎさ★キッチン」の代替活動とした取り組み。コロナ禍の影響による収入減少や失業等の他、物価高騰の影響も含め、生活にお困りになる地域の方への食の支援、フードロス対策として実施。

当日の様子

地域へのチラシ配布やコミュニティペーパーへの案内掲載、Instagram投稿を始めるとすぐに申し込みの電話が入る状況。「フードドライブ」のネーミングではあるが、食材受け取り希望者が圧倒的に多い。申込者の２/３がリピーターで、チラシには次回開催予定を添えている。回を重ねるごとに、食材提供者も増えてきている。「調理を自宅で行わない為、レンチンご飯が助かります」等のリクエストを添えられる方も多く、フードロス対策を意識している利用者も見受けられる。子供を含む世帯から高齢者まで幅広い利用あり。

地域の課題や今後の課題

次年度は「なぎさ★キッチン」を地域食堂の形で再開する方向だが、フードドライブの活動はリピーターも多く、回を重ねるごとに利用者も増えている現状から、地域ニーズは高いと判断し継続する方向。低所得世帯や、複数の課題を抱えている世帯（障害者と高齢者の世帯等）が多いと見受けられる集合住宅へは、チラシをポスティングし情報が伝わりやすい様に取り組んでいる（ポスティング地域からの申込割合は高い）。子育て世代からは「ひとり親世帯以外への支援が少ない為、対象者が広い当苑の取り組みは助かる」との声を頂いている。

No.29 江戸川区 特養、軽費（ケアハウス）、包括、デイ その他（お弁当配布（地域食堂の代替））

社会福祉法人東京栄和会　なぎさ和楽苑
なぎさ★キッチン

■開催日程　10/28　17：00～18：00
令和５年７月より毎月第４土曜日を開催日としている。今回は４回目の開催。

■参加団体　なぎさ和楽苑職員
【当苑活動中のボランティア団体】たんぽぽ、ワッシー、なぎさグループ

■参加人数　34名

実施の目的

食の支援・地域住民との交流を目的に、手づくり弁当を地域の方々に提供する。

なぎさ和楽苑と地域との関係を促進すると共に、地域ニーズを把握し、今後の地域公益活動を展開する。

当日の様子

お子様連れのご家庭から高齢者まで、予定数以上の地域の方が来苑され、お弁当をお買い求め頂けました。利用者の方との親睦を深める為、協力頂いているボランティア団体のメンバーと共に、お一人お一人へお弁当をお渡ししながら会話や写真撮影を行う等、交流を楽しみました。皆さん笑顔が多くみられ、大変喜ばれておりました。

７月の再開以降、開催の度にリピーターの方も増えてきており、顔なじみとなったり、会話も弾みやすくなっています。お弁当の販売だけではなく、わずかな時間ではありますが、交流を大切に取り組んでおります。

地域の課題や今後の課題

利用者全般から「安価で購入できるため助かる」とのお声を頂く一方、高齢者で食事準備に負担があり注文されている方から「来苑で受け取る事が大変」ともお声を頂いております。現時点では訪問でのお届け等の対応は検討しておりませんが、お困りの方への区配食事業等への申請支援等につなげていく事も検討しております。

現在はお弁当配布の形式で、以前開催していた食堂形式には戻せていませんが、今後は地域の「交流の場」「子供たちの放課後の居場所」等にも繋げられる様、食堂再開に向けて取り組む方向です。

No.30 八王子市 養護、その他（同法人敷地内保育園） 地域交流

養護老人ホーム楢の里
サタデーマーケット

■開催日程 ①５/27　10：00～11：00
②７/22　10：00～11：00
③９/16　10：00～11：00
④11/11　10：00～12：00
⑤３/23　10：00～12：00
■参加団体　地域の就労支援事業所　就労Bパン屋さん　クラブチーム２つ　地域のキッチンカー３つなど
■参加人数（のべ）　300名

実施の目的

誰もが活躍できる場の提供及び生活困窮者支援

当日の様子

会場は楢の里中庭と駐車場側２か所で開催。
中庭：ステージを中心に、手作り作品販売・焼き菓子・魚釣りなど子ども達が遊べるプレイスペース・紙芝居など
駐車場：キッチンカー（カレーライス・焼き芋など）・リサイクルショップ・新鮮野菜・フリーマーケット・介護体験など
※２か所の会場には、施設内を通り抜け遊びに行けるようになっているので、チラッとホーム内の見学もしていただけた。

地域の課題や今後の課題

主な会場を２か所に分けたが、狭くても１か所の方がいいのか検討中。また、近隣町会のマルシェとしてR６年度は共同開催の話が進んでいる。

No.31 八王子市 特養、包括、複数施設共催 地域団体との協働

偕楽園ホーム・第二偕楽園ホーム・花の里・ファミリーマイホーム・地域包括支援センター加住 第7回八王子介護フェア

■開催日程 10/21 12：50～16：00
■参加団体 社会福祉法人一誠会・社会福祉法人多摩養育園・社会福祉法人清心福祉会・社会福祉法人八王子心成苑・医療法人社団東京愛成会・社会医療法人社団愛有会・医療法人財団敬寿会・医療法人社団珠泉会・株式会社シルバービレッジ・東京都医療ソーシャルワーカー協会など
■参加人数 221名

実施の目的

「楽しく介護を知ろう」をテーマに、地域公益活動の一環として、ソーシャルワーク機能を生かしたアウトリーチ事業を行うとともに、参加施設・事業所の広報活動を行う。

当日の様子

今年のイベントテーマを「認知症も悪くない」とし、地域共生社会の趣旨である支え、支えられる関係の循環であったり、多様な主体が「我が事」として参画している実践例などを紹介する企画とした。講演では、認知症を患った方とその家族のエピソードを、実践例では、くらしの保健室を展開する事業所の事例を紹介していただいた。当日は天気にも恵まれ、地域住民や福祉医療関係者、大学生も多数参加いただいた。特に自宅で介護をしている住民から、「このイベントに参加して気持ちが楽になった」との感想をいただいた。

地域の課題や今後の課題

アフターコロナという位置づけで、来場者の事前予約制を撤廃し、主催する３法人による模擬店も再開した。継続して近隣の高齢者施設や医療機関、こども園の作品展示や教育機関によるコミュニケーションロボットの実演、ストレス測定など様々なコーナーの設置が好評であったため、今後も継続していきたい。

課題としては、地域の子どもやその親世代の関心が得にくく、参加される方々の高齢化が目立った。また、会場までのアクセスの問題で、イベントに興味があっても会場まで来られない方々への支援方法について、検討する必要がある。

No.32　武蔵野市　特養、包括、デイ、その他（地域団体）　地域交流

特別養護老人ホームとらいふ武蔵野
なのはなサロン

■開催日程　①９/24　10：00～11：30
②10/15　10：00～11：30
毎月第１～４日曜日10時～11時半（ランチの方は12時半まで）
■参加団体　関前なのはな会、社会福祉法人とらいふ武蔵野
■参加人数　毎回15～20名

実施の目的

いきいきサロン事業そのものが武蔵野市の事業として介護予防・認知症予防を目的としているが、それに加え、なのはなサロンはそのいきいきサロンの一つとして、地域交流・引きこもりの解消を大きな目的としている。

当日の様子

会場まで自力で来ることができる65歳以上の地域高齢者が15名前後集まり、30分程度の体操（スクラッチ、タオル体操、棒体操、ボール体操等）を行い、休憩後「座ってフラダンス」や「ボッチャ」「音楽療法」「各種ゲーム」等その日の担当になったスタッフの意向にあわせて会を行っている。そして希望者にはワンコインランチ（１食500円）を提供し、更なるメンバー同士の交流を図っている。

地域の課題や今後の課題

３年以上にわたるコロナ禍で活動量がめっきり減り、精神的にも積極性が減退してしまった高齢者を如何になのはなサロンにお誘いするか、それを地域活動としてどうのように行っていくかが現在の課題。今はメンバーが近所の友人、知人を誘ったり、活動の様子が外からでも見えるように会場のカーテンを全開にしたり、敷地内に案内ポスターを貼ったりしている。又、活動内容がマンネリ化せず、常に新鮮な感動を体験できるように工夫を凝らしている。

No.33 武蔵野市 特養、デイ 相談・家族支援

特別養護老人ホームとらいふ武蔵野
もしもの会

■開催日程　①９/24　14：00～15：00
　　　　　　②10/15　14：00～15：00
■参加団体　社会福祉法人とらいふ武蔵野
■参加人数（のべ）　20名

実施の目的

ALP・ACPの推進や入居者家族や地域住民同士の交流を目的として毎月実施しているもの。

当日の様子

地域の住民の方や特養入居者家族、そして特養で看取りを終えたOB家族が集まり、「医療との上手な付き合い方」「老衰について考える」等、毎回テーマを変えて、ご自分の体験談も交えてみんなで忌憚のない意見交換をした。又、「おしばなゲーム」を行い、参加者各自の人生観、死を迎えるにあたって大切にしている事を語り合い、意見交換することも行った。

地域の課題や今後の課題

コロナ禍における地域と施設の長期間にわたる断絶状態から脱却していく為に、施設としてどこまで感染対策を緩和して地域に施設を開放していくかが現在の大きな課題となっている。又、地域においてもコロナ前と全く同じ状態までイベント内容を戻していくかについては課題となっている。今後はコロナに加えインフルエンザも脅威となってくる中、活動の内容や在り方を工夫していく必要がある。

No.34 青梅市 複数施設共催 学びの機会

西多摩保健所青梅地区特定給食研究会
みんなの栄養展

■開催日程　10/21　13：00～16：00
■参加団体　西多摩保健所青梅地区特定給食研究会
■参加人数　82名

実施の目的

会員と地域の皆様が健康づくりのために集う場として毎年開催している。栄養展を通して改めて自分の栄養摂取状態を把握し、自分自身の健康や生活習慣を知り「食」に関する正しい知識を深める。

当日の様子

骨密度測定の結果を素にリーフレットやポスター等を活用し、現在の栄養状態について説明をした。過去の食生活から、今後どのようにすれば良いか等のアドバイスを管理栄養士から説明を行った。様々な年代の方が来られる事を想定し、メーカーの協力により栄養補助食品のサンプル等も用意した。日頃自分の栄養状態について気軽に相談する機会があまり無い事から、色々な質問を管理栄養士にしている場面が印象的であった。

地域の課題や今後の課題

課題として地域に気軽に栄養相談が出来る場所が少ない。今後の活動としては、栄養展を継続して開催する事で、地域の人達が正しい栄養情報を得てより良い知識を持ち、日々の健康的な生活に活かす事が出来るように取り組んでいく。

No.35 青梅市 特養

カフェ・居場所

特別養護老人ホーム和楽ホーム
あおぞらカフェ

■開催日程　8/9　14：00～15：30
■参加団体　小曽木っ子の会・ことぶき企画
■参加人数　22名

実施の目的

認知症予防や認知症の方を介護するご家族など、住み慣れた地域で生活できる仕組み作りの一環として、誰でも参加できる地域の情報交換や交流の場にしていく。

当日の様子

認知症に関わる短編動画の視聴やクイズ形式の脳トレーニングを実施したり、懐かしい昔遊びを参加者全員で楽しむ。その他にもボンティアの方による歌や劇を楽しみながら、紙芝居を楽しんだり、ご自宅でも簡単にできる健康体操を楽しみながら行う。最後には小グループでお茶やコーヒーを飲みながら交流を図った。

当日は地域の方や市内在住の方、近隣事業所職員など、様々な方が参加して戴き、認知症予防に向けた日々の取り組みや自己啓発を通して交流を図り、参加者からは「楽しかった」「また来たい」「勉強になった」等の反響を戴いた。

地域の課題や今後の課題

コロナ禍により中止していた為、地域包括支援センターの協力を得て、久しぶりの開催であった為、多くの参加者の参加が得られた。今後も定期的に開催する上で、地域の拠点として、開催が定着出来るかが、今後の課題である。

No.36 青梅市 特養 地域交流

社会福祉法人青芳会　特別養護老人ホーム今井苑
青梅インター周辺の清掃

■開催日程　9/21　10：00～11：00　（毎月第三木曜日の10：00～11：00）
■参加人数　7名

実施の目的

コロナ禍で施設内での地域活動が制限される中、青梅市の玄関口である青梅インターの清掃をボランティアの方と実施する。

当日の様子

地域の方や学生のボランティアさんと共に、青梅インター周辺へ行き、一緒にゴミ拾いなどの清掃活動を実施。インター周辺は民家が少ないため、粗大ごみや行楽帰りのゴミが落ちている事が多く、ボランティアの方とゴミの量に驚きながら清掃すると共に、綺麗になっていれば捨てにくい場所になると、話し合いながら活動にあたっている。

地域の課題や今後の課題

地域活動の課題として、高齢者施設での活動では、介護の専門性に特化した内容に偏ってしまう傾向にある。コロナ禍にて施設外で、介護に関わりのない活動を行う事により、ボランティアさんの参加のハードルが下がったと感じる。今後、専門性に特化した地域活動を再開すると共に、施設から地域に赴く活動を継続していきたいと考える。

No.37 府中市 その他（介護予防） 地域団体との協働

いきいきプラザ・府中分梅高倉自治会

いきいきプラザ・府中分梅高倉自治会 合同防災訓練

■開催日程　10/28　10：00～11：10
■参加団体　いきいきプラザ（光明高倉保育園・府中市立介護予防推進センター）、分梅高倉自治会、府中市食育推進リーダーパプリカ
■参加人数　71名

実施の目的

地域ぐるみの防災訓練の実施を通して、防災意識の強化を進める。また、地域交流、地域のつながりを強固にし、信頼関係のもと自助・共助の協働関係を構築していく。

当日の様子

昨年までは、いきいきプラザの総合訓練に自治会役員を招待し、自治会は単独で防災訓練を行っていた。今年は、自治会の防災訓練と、いきいきプラザの訓練を合体させて試行的に実施した。非常時の生活支援（非常用バッテリーやトイレなどの展示と使用方法のデモ）消防署には、消火訓練とけむり体験、パプリカ（食育推進自主団体）には非常用のビニール袋クッキングデモと試食、また、その他デジタル機器を使ったスマホ避難シュミレーションなど実施した。地域の方、利用者も参加し防災訓練としては有意義な取組となった。

地域の課題や今後の課題

自治会役員の高齢化、子ども会の解体など少子高齢化は地域にも忍び寄ってきている。その中で社会福祉法人として、地域を支える取組としてニーズに合わせ積極的に活動していきたいと考えている。今回の防災訓練は、自治会にとっては、満足度が高かったが、土曜日実施のため、保育園児の参加は限られてしまう。課題を検討しながらさらにより良い関係づくりと有意義な取組を構築していきたい。

No.38 府中市 特養、養護、包括 地域交流

社会福祉法人多摩同胞会　緑苑

緑苑・安心シニア塾

■開催日程　①5/18　10：00～11：30
②6/15　10：00～11：30
③7/20　10：00～11：30
■参加団体　多摩同胞会　緑苑　泉苑　あさひ苑
■参加人数(のべ)　210名

実施の目的

市民のみなさまが安心して豊かなシニアライフを過ごすため、安心して老後を迎えるために必要なことについて一緒にお考えいただくために開講した取り組みである。

当日の様子

毎回100人を超える申し込みと、70人前後の出席があり、みなさん大変熱心に勉強をされていた。

閉会後には、食事会も開催され、会場に残って食事をされる方々の交流の場も提供し、地域コミュニティ作りの場にもなっている。

地域の課題や今後の課題

11月～３月にかけて、さらに計５回の講座開催の予定。
今後も、年間を通して、
基礎講座　４回
専門講座　４回
年間、計８回づつの開催を継続予定である。

No.39 小金井市 特養 カフェ・居場所

特別養護老人ホームつきみの園
つきみのサロン

■開催日程　①10/13　13：30～15：00
　　　　　　②11/ 6　13：30～15：00
■参加団体　グループのぎく
■参加人数(のべ)　40名

実施の目的

毎月定期的にみんなで歌をうたったり、ミニ演奏会を開き、楽しい時間を過ごしていただくほか、災害時に生き抜くための知識を習得していただくために、防災士による30分間のセミナーを毎回開催する。

当日の様子

コロナ対策の関係もあり、参加定員は15名、主催メンバー５名と合わせて毎回20名、100%の参加率であった。参加者は、歌をうたうことの楽しさを、大きな声と笑顔で表されていた。また、楽しいだけの会でなく、近い将来の大地震に備えて、「在宅避難」という選択肢を前提に、２回にわたって「災害時のトイレ問題」の講演を行い、「自助努力」を怠らないことで、「災害時にあっても健康を維持しながら困難を乗り越えられる」ことをわかりやすく解説し、皆さんの防災意識も回を重ねるごとに高まっていることが実感できた。

地域の課題や今後の課題

元々コロナ禍に入る以前から定期的に開催し、予約なしで自由に参加でき、多い時には60名を超える参加者がいた。今年７月から再開したが、15名という定員制限は常連のかたですぐにいっぱいになってしまうため、活動の回数を午前午後のように２回に増やして対応していくことで、ひとりでも多くの地域の人たちが参加できるようにしていきたいと考えている。また、再開後に始めた防災セミナーは「高齢者の一人暮らし」のかたでもできる準備を想定しているため、皆様から高評価をいただいているので、今後も継続していきたいと考えている。

No.40 小平市 特養・包括

地域団体との協働

特別養護老人ホーム小川ホーム
だれでも食堂「おがワン広場」

■開催日程　毎月第４日曜日
■参加団体　２層協議会「みらい」、ボランティア、職員、職員家族
■参加人数（のべ）　60名

実施の目的

２層協議会「みらい」の話し合いで、小川ホームで地域の子供、障がい者、高齢者のだれでも利用できる温かい食事の出来る居場所をつくりたいとの思いより、小川ホームの公益活動として実施。お弁当を配布するのではなく、あくまでも食事の出来る居場所にこだわり実施。

当日の様子

特別養護老人ホーム　小川ホームの食事を50食提供している。高校生以下を無料、大人300円で食べてもらい、小平社協からのフードパントリーの残り物などももらい配布。11：30開始となっているが、11時前からたくさんの方が並んでくれており、11：45分くらいには完売になってしまうほどの盛況ぶりである。最初は高齢者が多かったが、開始して１年経ち子供１人で来てくれたり、家族で毎回来てくれる方や近隣の小学校、中学校の校長先生も来てくれている。また、障害がありここで食べれない方には、お弁当にして配布もしている。みなさんに喜んでいただき、「また来月ね」とお声をもらえるようになった。

地域の課題や今後の課題

地域では、やはりこういう場所が必要とされていることを実感している。しかし、50食限定でやっているが、だんだん来てくれる方が増え、すぐに完売してしまうので、今後は数量を増やすことを検討している。また、お手伝いをしてくれる方も増やしていきたい。小平社協のCSWとの連携もあり、閉じこもりの青年にボランティアに来てもらい活躍してもらっている。今後は、そのような取り組みもどんどんしていきたい。困っている子供が来てくれていてもなかな支援に結び付けていくことが難しいと感じている。今後は、おがワン広場を通じて、児童、障害、高齢で連携し支援出来るシステムを作っていきたい。

No.41 小平市 特養・包括 地域交流

特別養護老人ホーム小川ホーム
おがワンフェスティバル

■開催日程 11/26 10：00～14：00
■参加団体 ２層協議会「みらい」・見守りボランティア・介護予防リーダー・小平市役所（公共交通課）・白梅学園大学・ブリヂストン・緑成会病院・リズム工房（障害者支援施設）・たいよう福祉センター（障害者施設）・老人クラブ・ロミロミマッサージ・ボサノバアーティスト・被災地応援団体・手作りリース
■参加人数 360名

実施の目的

参加される団体（地域活動）の方、地域の方達の交流の場とし、一緒に楽しんで、みんなでつながり、ともに助け合い地域を作るために小川ホームの公益事業として実施する。だれでも食堂「おがワン広場」の開催１周年記念のイベントとしても実施。

当日の様子

当日は、ボランティアが約70名、小川ホームの職員が30名で約100名のスタッフで開催。あいにくの寒い天気の悪い日だったが、たくさんの方が来場、感染対策のため全員受け付けで、名簿記入、検温、消毒を実施してもらう。駐車場には、キッチンカー２台、パン屋、バザー、白梅遊ぼう会の遊び場、ブリヂストンのボッチャ、無料綿菓子を実施。ホーム内では、無料マッサージ店、被災地応援ショップ、だれでも喫茶等、舞台では、人形劇や新舞踊などを披露、隣の病院でも栄養相談やフレトレ教室を実施するなど。地域の交流イベントであることで、小平市長、市議なども来場。参加されている団体同士の交流、来場者同士の交流など交流の場となった。

地域の課題や今後の課題

コロナ禍で、４年ぶりの開催となった。包括支援センターの実施する２層協議会「だれでも安心して住める小川西町を考える会」みらいのメンバーが立案し実施。小川ホームの場所を使い、みなさんが交流する場を作りたいとの思いで実施しているフェスティバルなので、今後も地域の方達が主導で、ホームの地域連携委員会と連携し、実施していきたい。地域で活躍している団体がそれぞれで活動するのではなく、みんながつながり、地域を良くしていきたいとの思いを広げていくためにも、もっとたくさんの方に交流してもらう為にも毎年実施していきたい。

No.42　東村山市　特養　　地域交流

白十字ホーム
第8回　八国山フリーマーケット

■開催日程　10/29　12：00～15：00
■参加団体　社会福祉法人白十字会、社会福祉法人山鳩会、社会福祉法人ユーカリ福祉会、民生委員、地域住民
■参加人数　500名

実施の目的

高齢社会にあって、地域で暮らしていながら「孤立」している状況が社会的な関心を強めています。地域の中での世代間交流の機会を増やすこと、多世代が共に見守り支え合って、地域で暮らせる町づくりを目指します。

当日の様子

当日は29の個人と団体が出店され、盛況なフリーマーケットになりました。ステージでは保育園の園児による踊り、障害者施設の利用者によるバンド演奏、ミャンマー技能実習生による踊り、近隣中学校の生徒さんによる吹奏楽の演奏が行われました。好天にも恵まれ、来場者の方も多く、出店品の売れ行きも好評でした。４年ぶりの開催となりましたが、出店者同士のつながり、子どもから大人まで幅広い世代のつながり、高齢・保育・障害の分野を超えたつながりがみられました。参加された方達からはぜひ来年も！という声が聞かれています。

地域の課題や今後の課題

高齢化率は年々上昇しており、老老世帯、独居世帯が増えている。畑だった場所が住宅に変わっていて、新しい住民も増えている。地域住民同士のつながりの希薄化が地域の課題となるなか、八国山フリーマーケットが、地域のつながりを作り、誰もが安心して住み慣れた地域で住み続けられるような活動にしていきたい。

No.43 国分寺市 特養 地域交流

社会福祉法人至誠学舎立川　至誠ホームミンナ
語り合いサロン「ぷらっとなみき」

■開催日程　11/21　14：00～16：00
■参加団体　国分寺市防災安全課、国分寺地域包括支援センターなみき
■参加人数　14名

実施の目的

　施設のラウンジを開放した近隣に住む高齢者の集いの場。
指導員による介護予防体操で体を動かし、その後は医療・福祉等に関する情報、近隣での困りごと等の情報共有を行う等、地域住民の拠り所となっている。

当日の様子

　新型コロナの影響で４年ぶりの再開となった。参加者は総勢で14名と少なかったが、この会の開始当初からお世話になっている運動指導員さんによる介護予防体操のほか、市役所や地域包括支援センターの職員とともに、日頃からの防災への備えについて情報共有等を行った。
　参加者からは「昔を思い出して懐かしい。」「このような場があることがありがたい。」といった声が聞かれた。
　改めて地域に働きかけ、以前のように30名を超える参加者が集う、賑やかなサロンの復活を期待したい。

地域の課題や今後の課題

　　現在は当施設と併設の地域包括支援センターとの共催で開催しているが、将来は地域住民主体の開催に移行したいと考えている。
　現在の参加者の中から中心となる人が出てくることが望ましいが、当方としても企画・運営等のバックアップを行っていきたい。

No.44　国分寺市　デイ　相談・家族支援

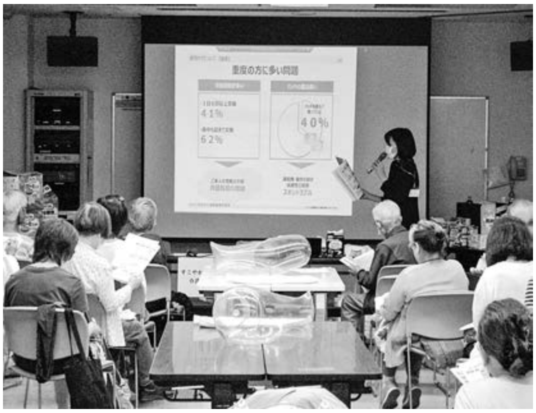
国分寺市高齢者在宅サービスセンターふれあい

介護者を元気に‼すこやか・ふれあい介護支援教室「紙おむつの上手な使い方を学ぼう」

■開催日程　10/7　13：30～15：30
■参加団体　個人参加　主に国分寺市民の方
■参加人数　38名（38名のうち男性９名）

実施の目的

「介護老人保健施設すこやか」「高齢者在宅サービスセンターふれあい」の地域貢献事業として、介護をされている方や介護に携わっている方の一助になればという趣旨により、介護支援教室「紙おむつの上手な使い方を学ぼう」を開催した。



当日の様子

最初に、参加者全員で、要介護者の方も椅子に座ったままできる「すこやか・ふれあい元気体操」で体をほぐしていただいた。

次に、㈱ユニ・チャーム社員を講師として、紙おむつの用途別使い方の説明、紙パンツの装着体験、人形を使った紙おむつ等のもれない当て方などの実習を行った。

普段介護をされている方が多く、皆さん熱心に受講され、受講後のアンケート調査においても、とても役に立った（77%）まあまあ役に立った（９%）いずれ役に立ちそう（14%）と高い評価をいただいた。

地域の課題や今後の課題

家庭内等で介護を行っていく中で、様々な悩みをお持ちになっている方が多いと感じており、今後参加したい講座についてのアンケートでも、介護保険の仕組み、認知症やその対応、施設の選び方、食事や栄養、嚥下や飲み込み、高齢者のかかりやすい病気についてなど多様の要望が出ていた。

地域貢献事業として少しでも介護者等皆さんの要望にこたえられるように、企画検討をしていきたい。

No.45 東久留米市 特養、包括、デイ 地域交流

三育ライフ　シャローム東久留米
シャローム祭

■開催日程　11/5　10：30〜13：30
■参加団体　社会福祉法人リブリー・社会福祉法人しおん保育園・社会福祉法人マザアス・社会福祉法人森の会・社会福祉法人すぎのこ・三沢かご店・なんくるエイサー・NOA
■参加人数　300名

実施の目的

地域の方々や関係する法人の方々との協力で、祭りを運営し、皆さんに楽しんでいただくこと。法人同士の交流を深めること。

当日の様子

今年は４年ぶりの開催で、規模を縮小しての開催でした。お天気に恵まれ、予想以上の来客となりました。エイサーでスタートしました。コロナの対策で、建物の中は、ロビーでの作品展示のみとなりました。外の模擬店やフリーマーケット、子供コーナーの射的やヨーヨー釣り大勢のお子さんが来てくれました。11月とは思えない暑い一日との予報から、急遽かき氷を販売。氷がなくなるほどの売れ行きでした。今年初めての企画で、大道芸のNOAさんのパフォーマンスは、大好評で、高齢の方からお子さんまで大喝采でした。

地域の課題や今後の課題

今年度は、小学校との交流ができず、小学生ボランティアの参加がなかったこと、コロナ対策で、特養のご利用者が外の会場に出ることができなかったことが残念でした。ただ、地域の皆さんが、４年ぶりの開催をとても喜んでくださり、改めて交流の大切さを実感できました。フリーマーケットで参加して下さった児童や障害の法人の方々との交流も再スタートでき、連携がいかに大事かを実感しました。この交流を継続していきたいと思っています。

No.46　稲城市　複数施設共催　カフェ・居場所

ハーモニー松葉、松葉保育園、包括支援センターやのくち
やのくち子ども食堂

■開催日程　10/25　17：00～17：30
毎月第３・第４水曜日　17：00～18：30
■参加団体　ハーモニー松葉、松葉保育園、包括支援センターやのくち
■参加人数　12名

実施の目的

近隣社会福祉法人３団体で連携し、何かしらの理由で、夜独りぼっちの小学生を対象に、夕食を提供しております。職員をはじめ地域住民の方にもご支援をいただき、ご入居者にはボランティアとして子ども達の見守りや食事の配膳、交流をしていただき、地域の異世代交流コミュニティーとして開催してます。

当日の様子

新型コロナウィルスも５類となり、９月より会食を再開しておりますが、当日は会食に４名の小学生とお弁当の持ち帰りで16名の食事を提供させていただきました。ご入居者も６名が参加され、夕食提供までの時間で子ども達とトランプや会話を楽しんでくださり、ハロウィンが近かったことから、ビンゴ大会でお菓子を選びプレゼントをする企画も実施し子ども達も喜んでおりました。

コロナウィルス前より子ども達の人数は少なかったですが、ご入居者と子ども達が徐々に心を打ち解けて、とても良い雰囲気で食事を召し上がっていただけた様子です。また、お弁当のニーズにも対応し、当日は16食受け渡しで提供させていただきました。

地域の課題や今後の課題

今後も定期的な会議を行いながら、３法人で連携しながら子ども食堂を継続してまいります。新型コロナウィルスの流行により、以前のような異世代が交流できたコミュニティー機能は再構築が必要となり、お弁当の配色などのニーズも高まってきてはいるので、時代に合わせながら地域ニーズに応えていければと考えております。

孤食の問題は、子どものみならず障がいをお持ちの方や高齢者、地域住民についても共通する課題となることから、少しでも地域公益活動を通して地域貢献となるよう努め、地域から必要とされる施設となるよう邁進していければと考えております。

No.47 羽村市 特養 学びの機会

社会福祉法人亀鶴会
多世代の居場所づくりプロジェクトUI〜結〜
神明台自習室　みらい

■開催日程　①11/ 8　16：30〜20：00　②11/ 9　16：30〜20：00
③11/10　16：30〜20：00　④11/11　15：00〜19：30
⑤11/13　16：30〜20：00　⑥11/14　16：30〜20：00
⑦11/15　15：00〜19：30　⑧11/16　15：00〜19：30
■参加団体　羽村市立第３中学校
■参加人数（のべ）　34名

実施の目的

中学生が地域の人々との交流を図りながら、安心できる環境でテスト勉強（自習）ができる。

当日の様子

定期考査１週間前より神明台sTorehouseを自習室として開放。今回は定員６名で募集をしたところ、５名の申込があった。（８日間の延参加人数は34名）みらい参加の主な理由は「家に集中して勉強する場所がない」「一人だと勉強が進まない」であった。同じ学校からの参加ではあるが、学年関係なく参加者同士での交流が深まり、18時〜19時の夕食の時間は進路、部活等の会話で盛り上がり賑やかな時間となっていた。学習を進める時間、休憩時間としっかりと区切りをつけ、自習室として有効に活用する事ができていた。

地域の課題や今後の課題

市内の公共施設では、自習スペースに限りがあり、いつも席が取り合いになっている。また近くに公共施設がないという事もあり、地域に中高生の居場所、学校や家庭以外で落ち着いて学習できる場は必要である。今回はみらいで自習、夕食を食べてから塾に行くという参加の仕方もあった。学生ボランティアとの関りが今回は少なく、学習支援を兼ねた取り組みは行う事ができなかったが、地域に安心して利用できる「学習の場」は必要であると改めて痛感した。利用する生徒や関わる人を増やし、学習支援を含め、学習の場としての機能を高めたい。

No.48 羽村市 特養

カフェ・居場所

社会福祉法人亀鶴会
多世代の居場所づくりプロジェクトUI〜結〜
高齢者の居場所　より処

■開催日程　毎週火・水・金・土曜日　11：00〜16：00
（都合により予定の変更あり）
10月・11月の実施回数　計32回（10月17回、11月15回）
■参加人数（のべ）　223名

実施の目的

利用する方に「つながり」と「役割」が生まれる事を目的に、地域の高齢者が気軽に集い、利用できる場の創設。

当日の様子

笑いヨガ、体操教室、映画会、カラオケ、ランチ会等の活動を取り入れ開催。利用する方が自分で目的をもって参加するようになり、どの活動でもつながりと会話が出来てきた。特にランチ会では「みんなで食べるとおいしい」とのご意見を多く頂き、毎回賑やかな時間となっている。職員を手伝ってくれる方、自分の得意な事、やりたい事を活動に取り入れてくださる方と徐々に「役割」が見つかる場となってきている。

地域の課題や今後の課題

独居や高齢者夫婦世帯、介護世帯が多く、その方々の交流の場が少ないという地域課題のもと「より処」をスタートした。実際に独居の方の利用は多い。またランチ会では利用する方の食生活の課題が見えてきた。地域に徒歩で通える食事の場は必要であり、「食」を媒体としたつながりづくりを展開していきたい。

No.49 羽村市 特養

カフェ・居場所

社会福祉法人亀鶴会
多世代の居場所づくりプロジェクトUI～結～
かふぇてりあ　はろ

■開催日程　毎週火・土曜日　16：30～19：00
9～11月の実施回数：24回
（9月8回、10月9回、11月7回）
■参加人数（のべ）　171名

実施の目的

小中学生が地域の方と交流を図りながら、安心して過ごす事ができる夕食付放課後の居場所の創設。

当日の様子

その日の活動スケジュール（卓球、バトミントン、トランプ、カラオケなど）を決めているが、参加不参加は自由。友達やボランティアさんと一緒に過ごす事を楽しみにしている子、ゲームなど自分の好きな事を一人集中したい子と利用の背景は様々であり、来た子の過ごしたいように過ごしてもらった。高校、大学生のボランティアさんの参加もあり、一緒に遊んだり話したりする事を楽しむ様子が見られた。

地域の課題や今後の課題

活動を通し、表面化していない、見えにくい問題を抱えるこどもがいる事がわかってきた。また考えていた以上に複雑化、深刻化した課題が見つかる事があり、相談、巻き込むべき人がわからない事、同じような活動を地域で行う人、団体の状況把握が出来ていない事が悩みである。居場所づくりに関わる人・団体、行政や地域が連携、協働し活動が円滑に進む体制作りにも取り組んでいきたい。

No.50 あきる野市 特養 地域団体との協働

特別養護老人ホーム麦久保園
地域敬老会サポート

■開催日程　9/10　11：30～14：00
■参加団体　折立町内会、折立ふれあい福祉委員
■参加人数　60名

実施の目的

　コロナ禍で長期間中止していたイベント再開にあたり、町内会は実施場所や段取り等に大きな不安を抱えていた。そこで、施設を利用いただき顔の見える関係性の再構築へ、地域イベントのリスタートを大きな目的とした。

当日の様子

　イベントでは、当園調理スタッフが祝い弁当を準備。会食では各々のテーブルで話も盛り上がっていた。会食後にはあきる野市社会福祉協議会へ登録しているボランティア団体より、漫談とマジックが披露された。
　感染症対策として、直接介護に携わらない職員がサポーターとなり、進行をフォローした。

地域の課題や今後の課題

　出かけたいけど、公共交通機関や車がない。スーパーやコンビニに行くにも１km以上離れており、さらに勾配がきつい。老々世帯や独居世帯は外出の目的に合わせた移動援助がないと出不精になる可能性がある。
　地主が多い地域で高齢化が進んでおり、生活に障がいや課題が出ても近隣世帯が高齢なゆえ共助の関係性にも不安はある。長期的なコロナ禍でインフォーマルな関係も希薄になっていると感じる。参加の機会を通して顔の見える関係を大切に、人と人、人と社会資源のつなぎ役が求められていると感じる。

No.51 あきる野市 デイ 地域交流

あすなろみんなの家
あすなろマルシェ

■開催日程 ①10/31 15：30〜17：30
②11/22 15：30〜17：30
■参加団体 あすなろみんなの家、秋川あすなろ保育園
■参加人数（のべ） 25人

実施の目的

施設の畑や庭で育てている野菜や果物等が、給食で使いきれずに余ることがあります。そんな時、自然の恵み・手間暇かけた成果を、地域の皆様に「お裾分け」します。

当日の様子

隣接する秋川あすなろ保育園のお誕生日会（デイサービス利用者も一部参加）の日に、当日の昼食メニューに使用した食材を、両施設の玄関前にて低廉な価格にて販売した。

栽培したさつま芋、白菜、大根等の野菜類を販売したほか、誕生日会恒例の赤飯や当日のおやつの試食も行った。

野菜類については、ご家庭での参考となるよう昼食で提供したメニューのレシピも添付した。

保育園のお迎えに来る保護者のほか、少人数ではあるが、ご近所の方々にもお買い上げいただくことが出来た。

地域の課題や今後の課題

原小宮地区は近くにスーパーやコンビニエンスストアがなく、移動手段の限られる高齢者等は買い物等に苦労が付きまとう。

また、デイサービスの利用者やご家族、保育園園児の保護者にも、食に関する様々な課題がある。

デイサービスや保育園における栽培など日々の活動で産み出されたものや給食調理のノウハウを提供することで、食事環境を整え健康の増進に貢献できればと考えている。

現在は「試行的」な取り組みにとどまっているが、定期的な実施を見据えて体制を整えていく予定である。

No.52 あきる野市 デイ 地域交流

あすなろみんなの家
ふれあいお茶飲み会

■開催日程　共催している原小宮町内会・原小宮ふれあい福祉委員会との調整の結果、令和６年の２月もしくは３月に開催することとなった。
■参加団体　原小宮町内会・原小宮ふれあい福祉委員会・あすなろみんなの家

実施の目的

町内会の高齢者のふれあい・交流の場として、昼食やゲームを通じ、「笑って歌って元気よく」楽しいひとときを過ごす。
「あすなろみんなの家」の事業や、介護保険・高齢者福祉のサービスについて理解していただく。

当日の様子

施設における新型コロナウイルス感染症への対策が続いていること、町内会行事の年間スケジュールが見直されたこと等により、ふれあいお茶飲み会の行事日程についても変更することとなった。

地域の課題や今後の課題

コロナ禍以降、高齢者のみならず、地域の方々が集まって活動する機会や場所が少なくなっている。
５類への移行後、徐々に活動の機会や範囲は以前の状態に戻りつつあるが、活動が停滞していた期間が長かったため、担い手やノウハウの継承に課題を抱えている団体等も多いと感じている。
施設としては、利用者や職員の安全を確保しつつ、地域の方々に施設にお越し頂くための方策を検討しているが、いまだに迷っている部分がある。

No.53 あきる野市 その他（自治体･事業者団体等の協働） 地域団体との協働

あきる野市・あきる野市地域包括支援センター・あきる野市介護事業者連絡協議会
介護サービス普及啓発イベント「介護の日」

■開催日程　11/11　10：00～16：00
プレイベント：11/6（月）～11/10（月）　9：00～17：00
※11/6（月）は13：00～、11/10（金）は12：00まで
■参加団体　あきる野市、あきる野市地域包括支援センター（３センター）、あきる野市介護事業者連絡協議会（会員106事業所）、その他協賛企業・事業所等
■参加人数（のべ）　588（メインイベント参加者のみ）人

実施の目的

各種展示や体験・相談コーナーなど多様なメニューを展開し、あきる野市民に対し広く介護サービスの普及啓発を図ります。

当日の様子

プレイベントでは通所サービス利用者の作品や福祉用具、訪問入浴の浴槽や行政・地域包括支援センター・各種サービス等のパネルを展示しました。

メインイベントでは上記に加え、中村ひでゆきさん（吉本興業）による高齢者漫談、訪問入浴の実演、ロコモチェックや骨密度測定、配食事業者による試食、福祉車両の展示、隣接する秋留台公園で開催されたあきる野市産業祭会場での迷い人捜索訓練ゲームなど多彩なメニューを展開しました。

産業祭会場でイベント告知チラシを配布したことにより、家族連れなど多くの方に来場いただきました。

地域の課題や今後の課題

一般市民にとって介護・福祉サービスは、必要に迫られるまで身近なものではないことを実感した。一方、以前より高齢者はつらつセンター（地域包括支援センター）の認知度の低さが指摘されていたが、ゲーム参加者から「総合的な相談窓口であることを知った」などの声が寄せられるなど。今回の取り組みが認知度向上に役立ったと考えられる。

今後も、介護や福祉についての情報提供をし、市民一人一人が自分の望む生活について日頃から考えられるよう、その結果、介護や福祉のサービスが身近なものとなるような働きかけが必要と考えられる。

No.54 瑞穂町 特養

介護予防・高齢者支援

特別養護老人ホーム良友園
ふれんどサロン

■開催日程　①９/19　10：30～11：30
　　　　　　②11/21　10：30～11：30
■参加団体　良友園職員（ふれんどサロン実行委員会）
■参加人数（のべ）　14名

実施の目的

　地域に住む方々との交流を通じて、施設を身近に感じていただくとともに、参加者の健康維持等に貢献する。また、地域の課題を知ることで、今後の地域貢献につなげていく。

当日の様子

　機能訓練指導員による準備体操・ストレッチ体操から始まり、頭と体を使う運動を行った。うまくいかないことも楽しんでいただき、笑い声にあふれていた。
　体操だけでなく、管理栄養士から健康を意識した献立の配布を行ったり、施設で取れた花の種を配ったり、地域の方とワイワイと一緒に楽しむことができた。

地域の課題や今後の課題

　当施設以外のサロン活動等にも参加されている方も多いようだが、サロン活動等が行われることで、出かける目的や機会をつくることにつながっているようである。
　今後も、地域の方々が健康で生きがいを持って生活する一助となれるよう、定期的な開催を継続していく。また、より多くの方が参加いただけるよう、参加者に有用である情報提供などを検討し、さらに喜ばれる活動にしていきたい。

No.55 瑞穂町 特養、デイ、居宅介護支援、ショートステイ カフェ・居場所

社会福祉法人梅の樹会　フラワープラム

こども食堂　フラワープラム
～たくさん遊んで・お腹いっぱい食べよう！～

■開催日程　8/27　11：00～13：00
8月から毎月第4日曜日11：00～13：00
■参加団体　瑞穂町社会福祉協議会、元高齢者サロン「ばらの会」の皆様
絵本の読み聞かせ「ピーターぱんだ」の皆様
みずほブランド登録店の皆様「食彩工房」「まろんしゃん」「近藤食品」
■参加人数　471名（8月から11月まで）

実施の目的

こどものとまり木＿共食と体験の提供
パパ・ママ応援団＿日曜日のご飯づくりはひと休み
生きがい活動応援団＿学生・元気高齢者主体の運営で役割創出
学生応援団＿こどもと触れ合い体験の創出

当日の様子

毎月、出来立てほやほやのカレー&おやつを提供しています。法人資源を最大限に活用し、裏庭やテラス、デイサービスフロアを開放して、屋内外で「遊び」「食べる」スペースを提供し、月替わりのワークショップも用意しています。また、元気高齢者、学生、地域団体の皆様が当日スタッフとして活躍いただいています。毎回、小さなお子様から地域住民の方がまで多くの方にご利用いただいており、高齢者施設が地域の広場として賑わっています。

地域の課題や今後の課題

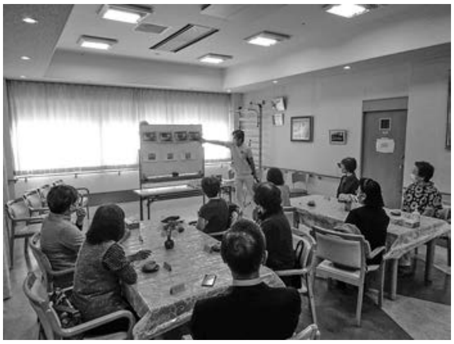
貧困救済といった子ども食堂の先行イメージの払拭を行いながら、広く地域の方に知ってもらう事が課題である。また、当日スタッフは、学生や地域の元気高齢者の方々に協力いただき大変充実しているが、当日までの準備を担う事務局業務は法人職員が担っており負担が大きい。準備に関わるスタッフ確保がもう一つの課題である。
今後も、地域の方々のつながりが生まれる「場」として機能できるよう、地域の皆様と一緒に楽しく活動していきます。

No.56 日の出町 特養 地域交流

特別養護老人ホーム第３サンシャインビラ
施設の食事を知ろう会

■開催日程　11/16　11：30～13：00
■参加団体　地域の方々
■参加人数　９名

実施の目的



施設で提供している普段の食事を食べながら、特別養護老人ホームとはどのような所なのか知っていただく。また、地域と施設が共存していけるよう地域の方々の意見を聞き、施設としてできることはないか検討していく。

当日の様子

管理栄養士より療養食や食事形態などの説明を行う。また、ペースト食やトロミを使用した物を試食していただいた。その後実際に提供している食事を召し上がっていただき、会の感想や地域での問題等話し合った。食事に関しては「美味しかった」「色々な食事形態があって驚いた」等感想が挙がった。地域としては、「地域には高齢者が多くいるが、集まる場がない為、今回のように月に１回でも食事をしながらお話しができる場があると良い」との意見が挙がった。参加者と職員とのコミュニケーションも取れ、とても和やかな雰囲気の会となった。

地域の課題や今後の課題

地域の方より「地域の方が集まれる場があると良い」という意見が挙がった。今後定期的に地域の方々が集まれる場、そして介護について気軽に相談できる場が提供できるか施設として検討していく。

No.57 日の出町 特養 防災

特別養護老人ホーム栄光の杜
応援協定による地域との防災訓練

■開催日程　10/22　9：00～10：00
■参加団体　日の出町第三自治会、秋川消防署　日の出町消防団、ひのでホーム日の出舎
■参加人数　40名

実施の目的

地域の拠点となる介護施設と地域と合同防災訓練を行うことで災害時の応援協定からの応援体制を確立し、防災に役立てる

当日の様子

栄光の杜の前の道路が土砂水害により通行止めになった設定で、孤立してしまった施設にどのように応援をするかを課題に、施設の裏手の山にあるごみ処分場の私有道路を解放して頂き、う回路を確保する想定で訓練をした。

地域の皆様、消防も通ったことのない道路を実際に通り確認した。皆様興味津々で、整備された道路に驚いていらっしゃった。

今まで存在は知っていたが、通ったことのない道だったので写真と映像を撮影し、マニュアル作りに役立てることができた。

地域の課題や今後の課題

これを機に自治会長より自治会の方で役場にも相談し、防災活動として私有道路の解放について掛け合い、協定を結んで行く予定とのことでした。

土砂水害が想定される土地柄ではあるので、消火訓練だけではなく実際を想定した訓練を増やしていく必要がある。

次年度は他の施設が持ち回りで施設の特性を生かした防災訓練を行っていく。

No.58 日の出町 特養

地域交流

特別養護老人ホーム藤香苑
みんなのホッとランチ

■開催日程　①11/19　11：30～13：00
　　　　　　②12/ 2　11：30～13：00
■参加団体　特別養護老人ホーム　藤香苑
■参加人数（のべ）　129名

実施の目的

特養で提供している食事をテイクアウト、ドライブスルー形式で販売し、地域の方への食事支援、レスパイトケア、社会参加のきっかけ作りなど受け取り手のニーズに応じて柔軟に寄り添う。

当日の様子

予想を超える事前の予約数や、当日販売もあり地域のニーズは高いことが実感できた。ドライブスルー形式で購入される方が大半であったが、徒歩で来られる近隣の方もいた。高齢の方からは「近くにスーパーがないので助かります」「もっと頻度を増やしてほしい」など多数のお話が聞けた。また、子育て世代の方からも「休日の家事の息抜きに助かります」との話がきけた。お弁当という一つのアイテムが注文して下さった方々の異なったニーズにフィットし、必要とされるサービスの提供ができたのではないかと感じた。

地域の課題や今後の課題

今回は感染対策も含めテイクアウト、ドライブスルー形式で実施したが、地域の方同士、施設の入居者とコミュニケーションの場となるような要素を加えるのであれば、地域の方が施設内で例えばバイキング形式であたたかい食事を召し上がっていただくことも良いかもしれないと感じた。さらには、職員、出入り業者、孤食の子供たちなどこの施設、地域に関わる全ての人を対象として拡大するのも良いかもしれない。その際に、「食事」以外の面でもどんなニーズがあるか聞き取りを行い、必要とされるサービスや、公益活動の情報を収集していきたい。

No.59 檜原村 特養

介護予防・高齢者支援

特別養護老人ホーム桧原サナホーム
とびっこクラブ

■開催日程　①10/18　10：00～13：00
②11/16　10：00～13：00
毎月１回、10時～13時
■参加団体　小沢とびっこクラブ
■参加人数（のべ）　10名

実施の目的

同じ地域に住んでいても会う機会が減っているため、仲間とあって楽しいひと時を過ごすことにより心身の健康維持につなげる。

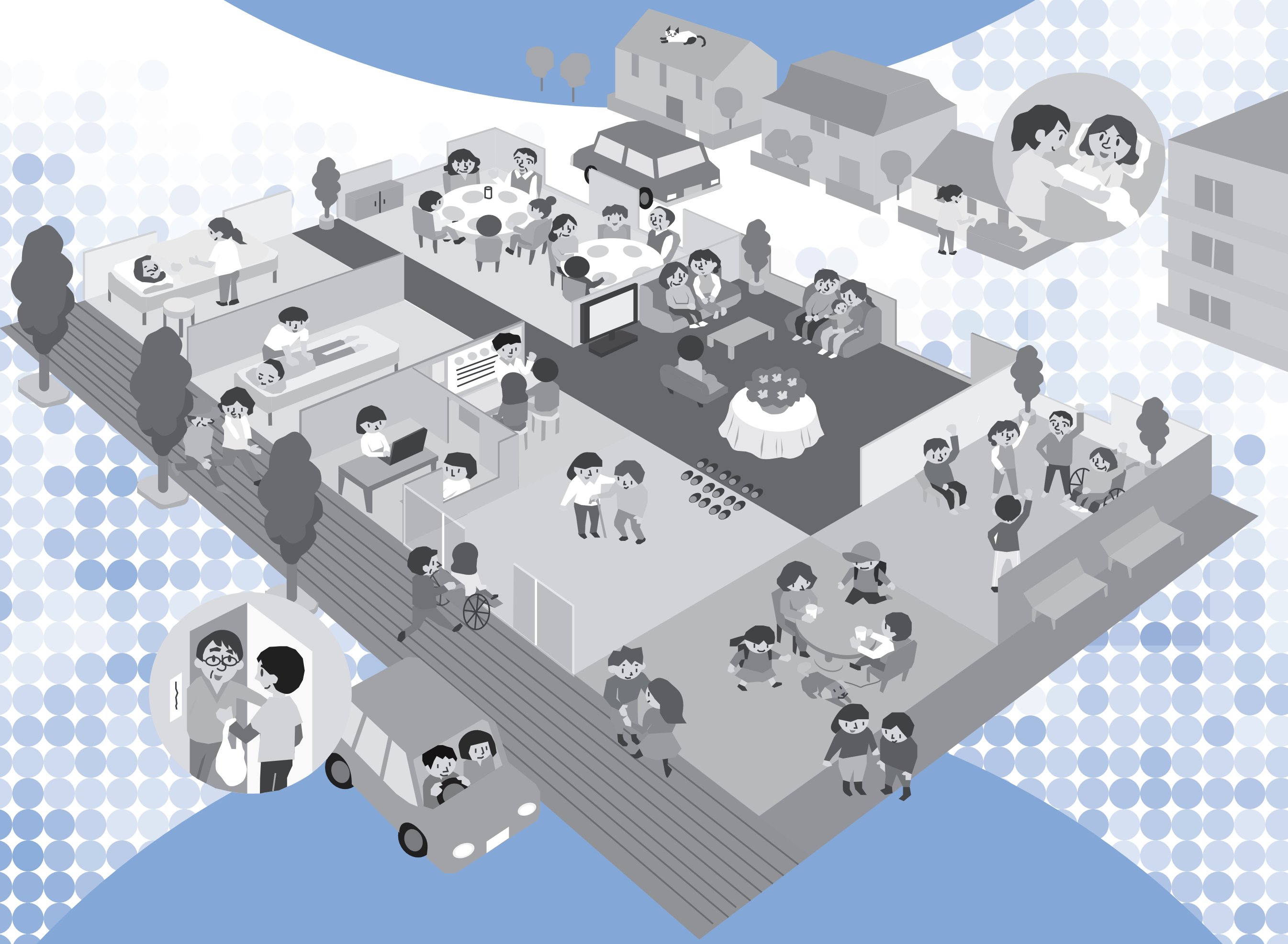
当日の様子

送迎者でお迎え。午前中はPTによる介護予防体操実施。施設から提供してくれる昼食をはさんで午後は脳トレや季節に合わせた作品作り（絵手紙で年賀状や暑中見舞いの作製、習字、お雛様作り、内輪作り　等）を実施。送迎者で帰宅。また、年に２回、お花見と紅葉見物に出かける等、外出も実施。

地域の課題や今後の課題

ゲートボールや老人会で集まれていた頃からさらに年を取り、会も解散。同じ地域に住んでいても仲の良い友達と会うことが難しくなってしまったため、安心して以前のように集まれる場を作る必要性が出てきた。今後、体操だけではなく施設看護師による講和も企画中。何らかの介助が必要な方が対象であり、受け入れ可能な人数に限りがある事が今後の課題となっている。

資料



つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2023　実施施設・事業所　募集要項

東社協　東京都高齢者福祉施設協議会

つながれ　ひろがれ　ちいきの輪　in　TOKYO

《高齢者福祉施設・事業所を中心とした「地域に寄り添う」ための都内一斉キャンペーン》

参加施設・事業所の募集ご案内

「つながれ ひろがれ ちいきの輪　ｉｎ　ＴＯＫＹＯ」は、誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざし、都内の高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人が中心に取り組むキャンペーンです。

新型コロナの感染拡大状況に応じ、2020 年度から 2022 年度までは、今までと異なる形で取り組みを実施してきましたが、今年度は従前に近づけた形でキャンペーンを実施することにいたします。

皆様のご賛同と積極的なご参加により、高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人における地域の取り組みへの認知度が高まります。ぜひご参加ください。

１　目的

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が、地域に寄り添うことで「ちいきの輪」をつくります。

高齢者やその家族をとりまく課題が多様化・複雑化する中、社会福祉法人による高齢者福祉施設・事業所には、地域住民への寄り添い（アウトリーチ）に大きな期待が高まっています。

高齢者福祉施設・事業所を中心に、地域住民に向けた取り組みをとおして「ちいきの輪」をひろげる一歩として、このキャンペーンにご参加ください。

◎キャンペーンについて

都内の高齢者福祉施設・事業所が一つになって行うキャンペーンです。

○多くの高齢者福祉施設・事業所では、地域に根ざした活動に取り組んでいるものの、社会福祉法人としてＰＲする機会は、かならずしも多くはありませんでした。

○キャンペーンをとおして、高齢者福祉施設・事業所の取り組みを地域住民に知っていただけるよう、会員の施設名や法人名も含めた積極的なＰＲを行います。

貴施設・事業所らしい、地域とつながる活動があれば、是非ご参加ください。

○地域住民への寄り添いが趣旨の活動であれば、どのような取り組みでもご参加いただけます。

○単独の施設・事業所による取り組みのほか、法人内施設・事業所や、他法人及び他業種の福祉施設・事業所、地域の住民組織等と合同の取り組みでもご参加いただくことができます。

○キャンペーン期間は９月～１１月ですが、期間外の取り組み（４～１０月）でもご参加いただけます。※１２月以降の取り組みは、報告書に掲載できない可能性があります。事務局までご相談ください。

活動実績をふまえ、福祉の理念にもとづく地域包括ケアの推進につなげます。

○キャンペーンのみに終わらないよう、各施設・事業所からの活動報告をふりかえりながら、福祉の視点による地域包括ケアの推進に向けた取り組みを行います。

多くの施設・事業所によるご参加によって効果的なＰＲができることから、積極的なご参加をいただくようお願いします。

あわせて、都内全区市町村でのキャンペーン参加をめざし、ブロック会や区市町村施設長会での呼びかけについてもご協力をいただきますようお願いします。

２　開催状況－過去の実績より

コロナ禍前の２０１９年度のキャンペーンでは、会員の施設・事業所をはじめ地域の団体との協働により、のべ８６８団体により１１８事業を実施。３３，７４８人の参加がありました。

＜２０１９年度のキャンペーンの様子＞

なぎさ☆キッチン
特別養護老人ホームなぎさ和楽苑
（江戸川区）

屋上菜園を通しての交流
特別養護老人ホームフレスコ浅草（台東区）

お年寄りの手作り作品展
東村山市高齢者施設連絡会（東村山市）

＜２０１９年度実施データ＞

取組み種別	取り組み数	構成比（%）
認知症への対応	9	7.6
介護予防・高齢者支援	9	7.6
アウトリーチ	5	4.2
相談・家族支援	0	0.0
カフェ・居場所づくり	18	15.3
地域住民の学びの機会	9	7.6
地域団体との協働	7	5.9
地域交流	53	44.9
防災への取り組み	1	0.8
その他	7	5.9

施設種別	取り組み数	構成比（%）
特別養護老人ホーム	53	44.9
養護老人ホーム	4	3.4
軽費老人ホーム	1	0.8
デイサービスセンター	12	10.2
地域包括支援センター	3	2.5
在宅介護支援センター	0	0
区市町村施設連絡会	5	4.2
複数施設との共催	20	16.9
その他	20	16.9

＜おもな取り組み＞

介護予防教室や認知症カフェの開催／地域の高齢者宅への訪問活動／地域住民や家族への相談活動／施設を会場としたカフェや居場所づくり／福祉や健康に関する市民向け学習会／地元イベントの参加など地域団体との協働／まちづくり懇談会など地域内での交流会／福祉避難所設置訓練など住民向けの防災活動

※過去の開催状況などの詳細はＨＰをご覧ください。

施設のお祭りや
敬老の日のイベントなど
施設で毎年行っている取り組みでも参加できるブル！

＜キャンペーンに参加した施設・事業所担当者の声より＞
- 新しいことではなくても、たくさんの事業所が参加することが大切だと感じました。
- 他施設の担当者と話し合うことで、一人で悩んでいたことへのアドバイスがもらえました。
- キャンペーンをとおして、地域の中での法人相互の連携が深まる可能性を感じました。

◎キャンペーン参加による３つのメリット

１　高齢者福祉施設や社会福祉法人に対する地域住民の理解が広がります
２　施設・法人における地域での新たな取り組みを行うきっかけにつながります
３　法人内の他事業所ならびに他の法人との連携をすすめるきっかけにつながります

3　キャンペーンの流れ

6月19日（月）参加申込受付開始
ＨＰよりエントリーしてください

6月29日（木）キャンペーン説明会

7月21日（金）エントリー締切

8月上～中旬　ＰＲの実施
キャンペーン実施前より広くＰＲを行います

9～11月　キャンペーン期間

12月上旬　事業レポートの提出
実施した取り組みについて、
事業レポートをご提出いただきます。

12月中旬　実施報告会とフィードバック
キャンペーンのふりかえりを行います

キャンペーン報告書を作成

お申し込みはウェブページにてお受けしております。
皆様のご参加を心よりお待ちしております☺

★キャンペーン説明会
参加検討中の事業所の方も、お気軽にご参加ください☺

日時　6/29（木）14：00～15：00
形式　オンライン（ZOOM）
内容　キャンペーン参加説明、質疑応答など
※今年度参加予定の施設・事業所は可能な限りご参加ください。
※詳細は別途送付する案内をご覧ください。

★キャンペーン参加施設・事業所見学会
日時・場所　調整中（3回程度を予定）
内容　施設・事業所の取り組みの様子を見学することができます。（希望者のみ）
※詳細は後日送付する案内をご覧ください。

4　Ｑ＆Ａ

【Ｑ】従来から実施している取り組みでも参加できますか。 【Ａ】できます。従来の活動も含めてＰＲすることがキャンペーンの目的です。なお、キャンペーンを契機として、施設・事業所内で新たな取り組みを検討いただく形での参加も可能です。ただし、自治体の委託事業など主催が他団体の取り組みの場合、事前に主催団体に了承を得た上でお申込みください。
【Ｑ】１日間、半日間、通年で実施している取り組みでも参加できますか。 【Ａ】広く地域住民を対象とする取り組みであれば、実施時間や期間の制限は特にありません。
【Ｑ】開催日時は施設側で決めてもよいのでしょうか。 【Ａ】各施設でお決めください。その際、日程が重ならないよう近隣施設との調整をお願いします。
【Ｑ】キャンペーン期間（９～１１月）に行わなければいけませんか。 【Ａ】期間外の取り組み（４～８月）でもご参加いただけますが、１２月以降の取り組みは、報告書に掲載できない可能性があります。事務局までご相談ください。
【Ｑ】施設のある地域の在住者のみを対象とする取り組みでも参加できますか。 【Ａ】ご参加いただけます。その場合、参加申込書の該当欄（参加条件）に記載ください。
【Ｑ】会員以外の事業所との共同（高齢分野以外の施設等との連携を含む）での参加はできますか。 【Ａ】可能です。ただし申込時の担当施設・事業所名は、高齢協の会員施設・事業所名でお願いいたします。
【Ｑ】取り組みやイベントの経費負担、ブロック活動助成の活用方法について教えてください。 【Ａ】取り組みやイベントの実施にかかる経費は、会員施設・事業所によりご負担ください。 なお、（高齢協会員である）複数の施設・法人での合同事業など区市町村単位・地域ブロック会単位で活動を行う場合には、地域ブロック会活動経費、地域ブロック会協働助成事業をご活用いただくこともできます。その場合には、各地域ブロック会長または事務局までご連絡ください。 キャンペーン全体の広報・ＰＲにかかる経費（キャンペーン紹介チラシやグッズ等）は、東京都高齢者福祉施設協議会が負担します。
【Ｑ】キャンペーン全体のＰＲはどのように行うのでしょうか。 【Ａ】キャンペーンを紹介するチラシを作成し、東京都高齢者福祉施設協議会のＨＰに繋がるQRコードのリンクを掲載します。各団体の取り組みをＨＰにとりまとめ、施設名や法人名、所在地、参加する取り組みやイベントに関する情報を掲載します。イベント当日などにチラシを配布いただきながら、都内全体の取り組みとしてキャンペーンをご紹介ください。また、行政や関係団体等にも情報を発信します。

【Ｑ】キャンペーンのロゴや名称はありますか。それをどのように使うのですか。
【Ａ】チラシやウェブサイト、また職員名刺や広報誌などに記載することで、趣旨に賛同しながら都内の高齢者福祉施設が一丸となって行っている姿を伝えるよう、ロゴマークの使用にご協力をお願いします。
ＨＰよりダウンロード可能です。また取り組み名称は、キャンペーンの趣旨にご理解をいただきながら、実施施設・事業所で任意に名称を設定していただいてもかまいません。

【掲載例】
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO
東京都高齢者福祉施設協議会
特別養護老人ホーム　〇〇苑
地域交流会・介護相談会　１１月〇〇日（〇）１０時～１５時

【Ｑ】チラシ以外に、キャンペーン広報グッズはありますか。
【Ａ】作成する予定です。参加施設・事業所にはキャンペーン実施前にグッズを配布いたします。これまでは、施設・事業所用にミニのぼり・アクティブルぬいぐるみ、イベント時の参加者配布用に付箋・ボールペン・クリアファイルなどを配布しました。詳細は、事務局までお問い合わせください。

【Ｑ】終了後の報告はどのように行うのでしょうか。
【Ａ】事業レポート、活動に関する写真の送付をお願いします。
レポートのフォーマットをＨＰよりダウンロードの上、作成し、事務局までお送りください。あわせて、ＨＰやFacebook 等に掲載可能な写真を１～２枚程度お送りください。レポートにて地域の方々の声、活動を通して浮き彫りになった福祉課題などについて伝えます。

【Ｑ】社会福祉法人ではなくてもキャンペーンに参加できますか。
【Ａ】可能です。ぜひご参加ください。

【Ｑ】キャンペーンの取り組みに対するリスク対応について。
【Ａ】事故等のリスクへの対応は、各施設・事業所でご対応いただくようお願いします。

【Ｑ】地域における公益的な取組との違いについて知りたい。
【Ａ】社会福祉法第 24 条第 2 項において、「すべての社会福祉法人は、その高い公益性にかんがみ、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するよう努めなければならない」という責務が課されております。

＜地域における公益的な取組み要件＞　※詳細は厚生労働省ＨＰをご覧ください
①社会福祉事業または公益事業を行うにあたって提供される「福祉サービス」
②「日常生活または社会生活上の支援を必要とする者」に対する福祉サービス
→心身の状況や家庭環境、経済的な理由により支援を要する者が対象。
③無料または低額な料金で提供されるもの

つながれ ひろがれ ちいきの輪では、地域における公益的な取組も含め、地域住民の暮らしの中での困りごとなど、日々の出来事によりそい、高齢者福祉施設・事業所としてできることから支えていく活動であればどのような取り組みでも参加いただけます。また、「東京都地域公益推進協議会」（事務局：東社協経営支援担当）とは異なる高齢協独自の取組みであり、参加において別途参加費等を請求することはございません。

◎参加申込みについてはＨＰをご覧ください。

▼東京都高齢者福祉施設協議会ＨＰhttp://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/
東京 高齢協議会 で検索！
※「最新情報」または「つながれひろがれちいきの輪」のページよりお申込みできます。
⇒会員のお申込みには**会員コード**の入力が必須となります。
※本通知左上または案内メールに記載しています。

※お申込みはインターネットからのお申込みとなります。その他の方法でお申込みを希望される場合は下記までお問合わせください。

←高齢協 HP 内「つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO」QR コード
（詳細・参加申し込みについて、こちらからもご覧いただけます。）

◎お問合せ先
東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当（渡邉・近藤）
TEL：03-3268-7172　FAX：03-3268-0635　メール：kourei@tcsw.tvac.or.jp

つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2023　実施状況

1　実施期間

2023年９月１日～11月30日

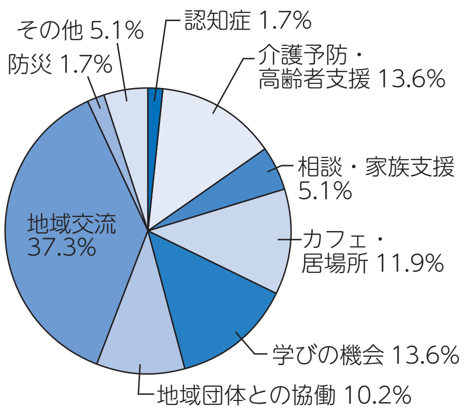
2　実施状況概要

参加事業数	59
参加団体数	334
実施区市町村数	28

3　実施事業内訳

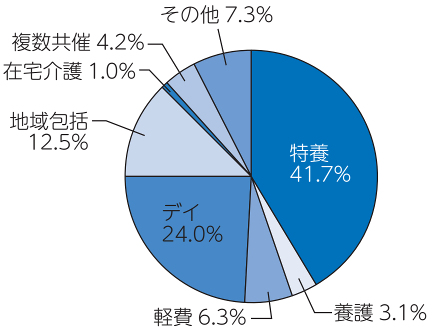
(1)取組み種別

	事業数	構成比
認知症	1	1.7%
介護予防や高齢者支援	8	13.6%
アウトリーチ（訪問活動）	0	0.0%
相談や家族支援	3	5.1%
カフェや居場所	7	11.9%
学びの機会	8	13.6%
地域団体との協働	6	10.2%
地域交流	22	37.3%
防災	1	1.7%
その他	3	5.1%
合　　計	59	100.0%



(2)施設・事業所種別

	事業数	構成比
特別養護老人ホーム	40	41.7%
養護老人ホーム	3	3.1%
軽費老人ホーム	6	6.3%
デイサービスセンター	23	24.0%
地域包括支援センター	12	12.5%
在宅介護支援センター	1	1.0%
区市町村施設連絡会	0	0.0%
複数施設との共催	4	4.2%
その他	7	7.3%
合　　計	96	100.0%



広報グッズ紹介

1　ロゴマーク

　各施設がキャンペーンの一環として都内全域で取組んでいることをPRするためのロゴマークです。東京の街並みや暮らす人を１つの輪にすることで「ちいきの輪」を表しています。パンフレット、名刺、ホームページなど様々な用途に活用いただきました。

2　チラシ

　キャンペーンの趣旨や今年度の実施施設・事業所の取組みを１枚のチラシにまとめました。

　表面のイラストには、「様々な高齢者福祉施設の活動の姿」「地域によりそう場」のイメージが込められています。高齢者福祉施設の取組みについて知っていただくために都内の関係団体や実施施設・事業所のかかわりのある住民に向けて配布を行いました。

3　シャーペン

　各施設・事業所の取組みの会場にて配布し、キャンペーンのPRをするグッズとして、今年度新しくつくりました。キャンペーンの取組み以外でも配布できるように手に取りやすいデザインとなっています。

4　のぼり

　各施設・事業所の取組みの会場に置いてキャンペーンのPRをするグッズ。高齢者施設や社会福祉法人が暮らしの困りごとを気軽に相談できるところであることも伝えています。

5　アクティブルぬいぐるみ

　東京都高齢者福祉施設協議会のマスコットキャラクターのぬいぐるみ。今年はキャンペーンのテーマカラーのピンク色のTシャツを着ています。のぼりと一緒に各施設の取組み会場に置いてキャンペーンのPRに活用いただきました。

広報ツール紹介

1　キャンペーン特設サイト

東京都高齢者福祉施設協議会のウェブサイト内に特設コーナーにて、今年度のキャンペーンの実施状況、これまでの開催状況など１年を通じてキャンペーンを知る機会として作成しました。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOキャンペーン特設サイト
https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/tiikinowa/index.html

2　Facebook

東京都高齢者福祉施設協議会のFacebookページにキャンペーン開始のお知らせを掲載しました。

3　東京新聞の広告掲載

キャンペーン中の11月11日（介護の日）に、情報広報室の協力のもと、東京新聞に東京都高齢者福祉施設協議会の全面広告としてキャンペーン再開の記事を掲載しました。

企画・制作／東京新聞広告局

11月11日は 介護の日
100年時代を楽しむために 続けよう、適度な運動 広げよう、仲間の輪

医療・介護・福祉の シゴトとサービス

リアルイベント・地域活動、再始動！

東京都高齢者福祉施設協議会 アクション2023

東京都高齢者福祉施設協議会マスコットキャラクター「アクティブル」

東京都高齢者福祉施設協議会（以下、高齢協）では、コロナ禍でしばらく中止となっていた集合型でのイベント・地域活動を徐々に再開させています。地域の高齢者を中心に、多くの人が豊かにつながり、笑顔があふれた今年度の活動内容の一部をご紹介します。

東京都高齢者福祉施設協議会とは

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、デイサービスセンターを会員とする組織です。東京の高齢者福祉の発展と、福祉サービスの質の向上を目指して活動しています。

福祉施設が地域に寄り添う都内一斉キャンペーン
「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」実施中!

～お近くの高齢者福祉施設・事業所の活動にぜひご参加ください!～

高齢協では、9～11月の間、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO（以下「つなひろ」）」を実施しています。「つなひろ」は、地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設が地域に寄り添う活動を推進するとともに、その活動を広くPRするためのキャンペーンです。施設では、従来から地域とつながる様々な活動を行っていますが、皆様に身近で頼りになる存在であることを改めて知ってもらいたいと、2016年度から毎年実施してきました。コロナ禍での中断を経て、今年度は4年ぶりに再開しています。

とらいふ武蔵野（特別養護老人ホーム・武蔵野市）での「なのはなサロン」の様子

大井三丁目高齢者憩いの場（品川区）での「ひなたぼっこ」の一コマ

各施設では、「子ども食堂」や「誰でも食堂」、サロンやお茶飲み会、認知症カフェのような居場所づくり、介護教室や勉強会、地域交流など多岐にわたる活動を施設単独で、または近隣の複数の施設・機関・団体と協働で行っています。つなひろ参加施設の活動については、高齢協HPにてお知らせしています。ぜひお近くの地域の活動や興味あるテーマを見つけて、ご参加ください。

つなひろワーキングチームリーダー
（福）秋川あすなろ会 あすなろみんなの家 統括施設長 今 裕司

詳しくは こちらから

高齢者福祉実践・研究大会
「アクティブ福祉in東京」 4年ぶりの対面開催

2023年9月26日「アクティブ福祉in東京’23」を京王プラザホテルで開催しました。大会スローガンを「さいかい～解決の糸口はこの大会にある～」とし、新型コロナウイルス感染症の影響で中止やオンライン開催となっていた本大会は、4年ぶりの対面開催となりました。当日は、対面での発表の場を「再開」するとともに、高齢者福祉に関心のある仲間との「再会」を果たす場となり、667名にご参加いただきました。次年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

大会実行委員長／（福）アゼリヤ会 特別養護老人ホームあかね苑 施設長 大住 優

全体会・表彰会場の様子

口演発表会場の様子

「アクティブ福祉in東京」とは

都内の高齢者福祉施設が、日頃の取り組みや実践・研究を発表する大会です。東京の高齢者福祉の質の底上げを目的に開催しています。

詳しくは こちらから

4　つなひろ通信

キャンペーンの進捗状況を都内の高齢者施設や都民の方に定期的に伝えるものとして発刊しました。今年度もつながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO のキャンペーンを企画・運営を担当するワーキングチームのメンバーに見学会の様子を紹介していただきました。実践で取組まれている視点から感じたことや考えたことをまとめ、伝えています。

2023年10月2日号（送信枚数：全１枚）

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol. 1

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会（企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO W T）

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム（ケアハウスを含む）、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはチラシやグッズを追加で送付することができます。送信元までご相談ください。

トピックス１　９月１日キャンペーン開始！―ホームページに開催情報掲載

「つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2023」は、都内28の区市町村で、59事業の参加により、９月１日にスタートしました。コロナ禍で中断を余儀なくされ、４年振りの開催となります。参加事業所数の減少から、まだまだ感染症の心配が残るなか、地域との交流にも慎重にならざるを得ない状況であることが感じ取れます。そんな中でも、着実に取り組みを広げていきます。

キャンペーンの詳細は、下記ウェブサイトで確認いただけます。また、地域に寄り添うためのヒントを得る機会として、エントリーされた事業所の取組みの見学会を実施予定です。見学会以外の個別の見学希望や活動に関するご相談も、下記の事務局までお問い合わせください。

エントリー事業所に送付したグッズ

報道関係者への説明風景

トピックス２　９月17日（日）キックオフ記者会見@とらいふ武蔵野

待ちに待った『つながれ ひろがれ ちいきの輪』が再開しました！！

キックオフ記者会見として、とらいふ武蔵野（武蔵野市）で行われた『なのはなサロン』の見学会に行って来ました!(^^)!

当日は報道関係者も集まり、つなひろワーキングチームの清野さん（府中市地域包括支援センターあさひ苑）より、キャンペーン開催の目的や取組状況について説明がありました。多数の質問が寄せられ、地域福祉推進における社会福祉法人への期待の高さが感じられるとともに、私たち社会福祉法人が行う社会や地域に貢献する活動について、もっと発信して行かなくてはと言う思いを強く持ちました。

「なのはなサロン」は、地域の運営スタッフ（ボランティア）に事業所が協力をする形で開催されています。当日は見学者も大勢の高齢者と元気に体操し、楽しく歌を歌い、もりもりと食事をする幸せな時間を共に過ごすことが出来ました。参加者から「なのはなサロンに通うために元気でいられるように頑張っているのよ」と伺い、地域の中で欠かせない活動なのだと実感しました。ボランティアの方々が活き活きと活動されている姿も印象的でした。

見学会開催予定

ひなたぼっこ

大井三丁目高齢者憩いの場（品川区）
10/26（木）10：00～12：00　開催

多世代で楽しむ創作のプログラムを実施します。親子やお孫さんとの参加や子供だけの申し込みも可能です。見学会当日は、日本の伝統文化の「結び」を学び、「菊結び」や「梅結び」に挑戦します。

おがワンフェスティバル

小川ホーム（小平市）
11/26（日）　10：00～　開催

地域にお住いの方々や地域で活躍する団体の方、民生委員、企業、大学などが交流する機会として、またそれぞれの活動を知ってもらう機会としてフェスティバルを実施します。

※10/2 現在の予定です。見学先・時間の変更などある場合がございます。詳細は別途案内いたします。

▼キャンペーンの詳細はこちらから
http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/
※会員向けメールでもご案内しております。

東京　高齢協議会　で検索！

送信元
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail：kourei@tcsw.tvac.or.jp

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO
ワーキングチーム 委員募集

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームでは、キャンペーンをすすめていくために、一緒に活動していただける方を募集しています。対象は東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員になります。ご興味がある方は、下記に施設・事業所名とお名前、ご連絡先をご記入の上、ＦＡＸ・メールにてお送りください。

＊必要に応じてご所属の法人代表や事業所長に派遣依頼文等を作成いたします。

2023 年度ワーキングチームの活動

・年 8 回程度の委員会の開催　　・キャンペーングッズ・チラシ・報告書の企画作成

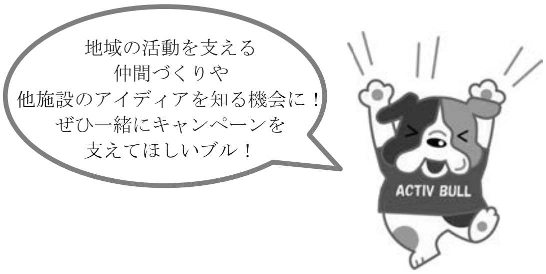
・つなひろ参加施設への見学会（3 回）や、実施報告会の企画運営　など

見学会　実際に目で見て地域の実践を学べる場をつくりました

実践報告会　グループワークに入って一緒に考えることも！

地域によりそう実践から、都内の高齢者福祉施設などが、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりのためにできることとは何か、を日頃から考えて取り組んでいます。

自施設・事業所の取組につながるヒントを得られるチャンスに、和気あいあいとした雰囲気の中で情報交換をしながら、キャンペーンの企画内容の検討やイベントの運営一緒にしてみませんか。みなさまのご参加お待ちしております。



■お問合せ先

東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当（渡邊・近藤）

TEL：03-3268-7172 FAX：03-3268-0635 メール：kourei@tcsw.tvac.or.jp

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ＷＴ　委員参加希望

事業所名：　　　　　　　　　　　　お名前：

TEL：　　　　　　　　　　　　　　FAX：

Mail：

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会
2023年度　地域包括ケア推進委員会
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 名簿

No.	所属	氏名
1	あすなろみんなの家	今　裕司
2	品川区立中延在宅サービスセンター	小山　正子
3	高田介護予防センター	相澤　和彦
4	東大和市高齢者ほっと支援センターいもくぼ	長谷川　栄司
5	東久留米市中部包括支援センター	津雪　聡子
6	府中市地域包括支援センターあさひ苑	清野　哲男
7	府中市立介護予防推進センター	沼尾　治巳
8	とらいふ武蔵野	大脇　秀一
9	東京都民生児童委員連合会	藤野　真琴
10	東京ボランティア・市民活動センター	榎本　朝美

※2024年３月時点

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2023 報告書

2024年５月発行
編集　東京都社会福祉協議会　東京都高齢者福祉施設協議会
発行者　東京都社会福祉協議会
〒162-8953　東京都新宿区神楽河岸１-１
TEL　03-3268-7172　　FAX　03-3268-0635
http://www.tcsw.tvac.or.jp/

お問い合わせ

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会
事務局　社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当
〒162-8953　東京都新宿区神楽河岸１－１
飯田橋セントラルプラザ内
TEL 03-3268-7172　FAX 03-3268-0635
URL http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/